



Video Satellite ガイド

バージョン 8.0.1

法律に基づく表示

© 2009 本書の著作権は Avid Technology, Inc. の事業部 Digidesign（以下「Digidesign」）に帰属します。著作権法に基づき、Digidesign の書面による同意なくして、本書の一部または全部を複製することはできません。

003, 96 I/O, 96i I/O, 192 Digital I/O, 192 I/O, 888|24 I/O, 882|20 I/O, 1622 I/O, 24-Bit ADAT Bridge I/O, AudioSuite, Avid, Avid DNA, Avid Mojo, Avid Unity, Avid Unity ISIS, Avid Xpress, AVoption, Axiom, Beat Detective, Bomb Factory, Bruno, C|24, Command|8, Control|24, D-Command, D-Control, D-Fi, D-fx, D-Show, D-Verb, DAE, Digi 002, DigiBase, DigiDelivery, Digidesign, Digidesign Audio Engine, Digidesign Intelligent Noise Reduction, Digidesign TDM Bus, DigiDrive, DigiRack, DigiTest, DigiTranslator, DINR, D-Show, DV Toolkit, EditPack, Eleven, HD Core, HD Process, Hybrid, Impact, Interplay, LoFi, M-Audio, MachineControl, Maxim, Mbox, MediaComposer, MIDI I/O, MIX, MultiShell, Nitris, OMF, OMF Interchange, PRE, ProControl, Pro Tools M-Powered, Pro Tools, Pro Tools|HD, Pro Tools LE, QuickPunch, Recti-Fi, Reel Tape, Reso, Reverb One, ReVibe, RTAS, Sibelius, Smack!, SoundReplacer, Sound Designer II, Strike, Structure, SYNC HD, SYNC I/O, Synchronic, TL Aggro, TL AutoPan, TL Drum Rehab, TL Everyphase, TL Fauxlder, TL In Tune, TL MasterMeter, TL Metro, TL Space, TL Utilities, Transfuser, Trillium Lane Labs, Vari-Fi Velvet, X-Form, XMON は Digidesign および / または Avid Technology, Inc. の商標または登録商標です。Xpand! は米国特許商標局に登録されています。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

製品の機能、仕様、システム要件、供給は予告なく変更することがあります。

Guide Part Number 9106-59266-01 REV B August 2009

取扱説明書に対するご意見

Digidesign は常に取扱説明書の品質の向上に努めています。弊社の取扱説明書に対するご感想、ご指摘、ご意見がありましたら、infojp@digidesign.com まで電子メールをお送りください。

Avid 製品またはその一部は以下の 1 つまたは複数によって保護されています。

米国の特許：

4,746,994; 4,970,663; 5,045,940; 5,267,351; 5,309,528; 5,355,450; 5,396,594;

5,440,348; 5,467,288; 5,513,375; 5,528,310; 5,557,423; 5,568,275;

5,584,006; 6,704,445; 6,747,705; 6,763,134; 6,766,063; 6,791,556; 6,810,157; 6,813,622; 6,847,373; 6,871,003; 6,871,161; 6,901,211; 6,907,191; 6,928,187; 6,933,948; 6,961,801; 7,043,058; 7,081,900; 7,103,231;

5,577,190; 5,584,006; 5,640,601; 5,644,364; 5,654,737; 5,715,018; 5,724,605; 5,726,717; 5,729,673; 5,745,637; 5,752,029; 5,754,851; 5,799,150; 5,812,216; 5,852,435; 5,905,841; 5,929,836; 5,930,445; 5,946,445; 5,987,501; 6,016,152; 6,018,337; 6,023,531; 6,058,236; 6,061,758; 6,091,778; 6,105,083; 6,118,444; 6,128,001; 6,134,607; 6,137,919; 6,141,691; 6,198,477; 6,201,531; 6,223,211; 6,249,280; 6,269,195; 6,317,158; 6,317,515; 6,330,369; 6,351,557; 6,353,862; 6,357,047; 6,392,710; 6,404,435; 6,407,775; 6,417,891; 6,426,778; 6,477,271; 6,489,969; 6,512,522; 6,532,043; 6,546,190; 6,552,731; 6,553,142; 6,570,624; 6,571,255; 6,583,824; 6,618,547; 6,636,869; 6,665,450; 6,678,461; 6,687,407; D392,269; D396,853; D398,912.

その他の特許は出願中です。

目次

第 1 章 はじめに	1
ビデオ出力オプション	1
対応するビデオ解像度	3
Avid Interplay への対応	4
Avid Unity ISIS および MediaNetwork ストレージ・システムへの対応	5
Avid 用語	5
システムの必要条件と互換性	11
Pro Tools ガイドについて	11
凡例	12
www.digidesign.com について	12
第 2 章 Video Satellite をインストールする	13
ハードウェアをインストールする	14
Media Composer ソフトウェアをインストールする	17
Media Station PT 2.7 からアップグレードする	17
Media Composer の旧バージョンからアップグレードする	18
[簡易ファイルの共有を使用する]をオフにする	19
nVidia ドライバをインストールする	19
nVidia ディスプレイ・ドライバ・サービスを無効にする	19
ビデオ・サテライト・システムをオーソライズする	20
ビデオ・サテライト・システムでイーサネット接続を行う	24
Media Composer を Pro Tools へ接続する	25
第 3 章 ビデオ・サテライトのワークフロー	27
ビデオ・アウトプット設定を変更する	27
リモート・システムのメディア・ストレージをクロスマウントする	29
再生するシーケンスをビデオ・サテライト・システムで開く	37
ダイレクト再生に対応しているボリュームから Avid シーケンスを開く	38
再生に対応していないボリュームから Avid シーケンスを開く	42

エクスポート設定を保存、呼び出し、使用して AAF シーケンスをエクスポートする	47
再生する AAF シーケンスをビデオ・サテライト・システムで開く	47
Avid Interplay 環境でビデオ・サテライトを使用する	50
Pro Tools とビデオ・サテライトを接続する	50
ビデオ・サテライト・システム内の Media Composer と Pro Tools 設定を一致させる	52
Pro Tools とビデオ・サテライトをリンクまたはリンク解除する	59
ビデオ・サテライト・システムでオーディオおよびビデオをキャプチャーする	60
既存のシーケンスを再びデジタル化する	68
EDL からデジタル化する	68
オーディオおよびビデオをテープにレイバックする	68
オーディオおよびビデオをデジタル・ムービーとしてビデオ・サテライトからエクスポートする	71

第 1 章

はじめに

Video Satellite は、Avid Media Composer ソフトウェアを起動した別のコンピュータを使ってビデオの同期再生、キャプチャー、変換を行う Pro Tools HD 8.0（以上）用のパワフルなポストプロダクションのオプションです。

Media Composer 4.0 ソフトウェアと Video Satellite オプションを使うと、以下の Avid ビデオ機器を通してビデオの出力とキャプチャーが行えます。

- Avid Nitris DX
- Avid Mojo DX
- Avid Adrenaline（DNxcel カードが必要）
- Avid Mojo SDI
- Avid Mojo

 *Video Satellite は、Pro Tools 7.4.x と Media Station/PT 2.7 で使用することもできます。この構成に関しては、「Media Station/PT ガイド」をお読みください。*

ビデオ出力オプション

Video Satellite は、以下の構成の 1 つを使ってビデオを出力します。

- 外部の NTSC または PAL ビデオ・モニターで再生（Avid Nitris DX、Mojo DX、Adrenaline、Mojo SDI、または Mojo が必要）
- Avid Nitris DX、Mojo DX、または Adrenaline（要 DNxcel カード）を使った外部の HD-SDI ビデオ・モニターで再生
- 外部の HDMI ビデオ・モニターで再生（Avid Nitris DX または Mojo DX が必要）
- Avid Nitris DX または Adrenaline（要 DNxcel カード）を使った外部のアナログ HD ビデオ・モニターで再生
- DVI 出力を使ってコンピュータのメイン・モニターまたはサブ・モニター上でフルスクリーン再生

NTSC または PAL の外部ビデオ・モニターで再生する

(Avid Nitris DX、Mojo DX、Adrenaline、Mojo SDI、または Mojo のみ)

Media Composer は、SD ビデオ (SD ビデオに変換された 1080 HD ビデオ) を NTSC または PAL の外部モニターへ高品質かつフレーム精度で再生するのに Avid ビデオ機器を必要とします。

この構成で 1080 HD ビデオを出力するときは、HD シーケンスを SD ビデオへ変換するか、HD プロジェクト全体を SD ビデオヘリアルタイムでダウンコンバートします。

 720p のプロジェクトはダウンコンバートできません。

Avid Nitris DX または Mojo DX を使っているときは、ソフトウェア・モードで、1080 HD ビデオを SD ビデオヘリアルタイムでダウンコンバートできます。

Video Satellite はハードウェア・ベースのダウンコンバートには対応していません。

外部の HD-SDI ビデオ・モニターで再生する

(Avid Adrenaline と DNxcel、Nitris DX、または Mojo DX のみ)

Media Composer は、ネイティブの HD ビデオを外部の HD-SDI モニターへ高品質かつフレーム精度で再生するのに HD 対応 Avid ビデオ機器 (Adrenaline と DNxcel、Nitris DX、または Mojo DX) を必要とします。

DVI 出力を使ってコンピュータのモニターでフルスクリーン再生する

対応ビデオ・カードをインストールすると、Media Composer Video Satellite は SD ビデオまたは HD ビデオを DVI ポートを通してコンピュータのメイン・モニターまたはサブ・モニターでフルスクリーン再生できます。

フレーム・レートとは異なる更新レートでビデオを再生すると (DVI 出力を通してビデオを再生するときによくあるケース)、画像が乱れオーディオとビデオの同期がずれます。たとえば 24 fps のビデオ・クリップを更新レート 75 Hz の DVI モニターで再生すると、この現象が起きます。

 ワークフローが高品質の再生を必要とする場合は、SD とダウンコンバートした HD は NTSC または PAL のモニターへ、ネイティブの HD は HDMI または HD-SDI のモニターへ、Avid ビデオ機器を通してビデオを出力しなければなりません。

 メイン・モニターまたはサブ・モニターへの DVI 出力の品質について詳しくは、第 3 章の「ビデオ・サテライトのワークフロー」をお読みください。

対応するビデオ解像度

Media Composer Video Satellite は、以下のとおり幅広い解像度とフレームレート（HD ビデオを含む）のビデオのインポート、キャプチャー、再生に対応しています。

- Avid DNxHD（10-bit および 8-bit 4:2:2）（1080i（59.94、50 fps）、1080p（25、24、23.976 fps）720p（59.94、23.976、50 fps））
- ネイティブ DVCPRO HD 対応（1080i（59.94、50 fps）720p（59.94、23.976、50 fps））
- ネイティブ XDCAM HD 対応（1080i（59.94、50 fps）、1080p、720p（25 fps））
- ネイティブ HDV 対応（1080i（59.94、50 fps）、1080p、720p（29.976 fps））
- スタンダードディフィニションの Avid OMF および MXF ビデオ・ファイルすべて
- Avid IMX MPEG50、MPEG40、MPEG30、OP1a ファイル
- AVC-I ファイル（50 Mb/s と 100 Mb/s）
- GFCAM ファイル（50 Mb/s と 100 Mb/s、再生のみ）
- MPEG 4 ファイル
- 以下を含む、Avid コーデックで圧縮されている DV50、DV25、DVC Pro 25 解像度：
 - DV25 411: 4:1:1 サンプルングによる DV25 インターレース走査（NTSC 30i および PAL 25i プロジェクト用）
 - DV25 420: 4:2:0 サンプルングによる DV25 インターレース走査（PAL 25i プロジェクト用）
 - DV25p 411: 4:1:1 サンプルングによる DV25 プログレッシブ走査（NTSC 23.976p および NTSC 24p プロジェクト用）
 - DV25p 420: 4:2:0 サンプルングによる DV25 プログレッシブ走査（PAL 25p および PAL 24p プロジェクト用）
- スタンダードディフィニションの Avid マルチカメラ解像度ファイルすべて

- Avid DV、JFIF、MXF ビデオ・コーデックで作成された以下のビデオ解像度に対応しています。

- 1:1（非圧縮 JFIF/MXF）
- DV50
- DV25 4:1:1
- DV25 4:2:0
- DV25P 4:1:1
- DV25P 4:2:0
- 15:1s 4:2:2
- 14:1P 4:2:2
- 28:1P 4:2:2
- 35:1P 4:2:2

対応する解像度およびフレームレートに関して、詳しくは Avid Media Composer オンライン・ヘルプまたは Avid ウェブサイト（www.avid.com）をご参照ください。

Media Composer のオンラインヘルプを起動するには：

- [ヘルプ] (Help) > [オンラインヘルプ] (Online Help) を選択します。

対応するフレームレートおよび Avid プロジェクトの種類

Media Composer は、以下のレートにおけるビデオのインポート、キャプチャー、再生に対応しています。

- 23.976p NTSC
- 24p NTSC
- 30i NTSC
- 24p PAL
- 25p PAL
- 25i PAL
- 720p/23.976
- 720p/29.97 HDV
- 720p/50
- 720p/59.94
- 1080p/23.976
- 1080p/24
- 1080p/25
- 1080i/50
- 1080i/50 HDV
- 1080i/59.94
- 1080i/59.94 HDV

A インターレース方式の HD プロジェクトでは、実際のフレーム・レートはフォーマットの値の半分になります。たとえば、1080i/50 のプロジェクトのフレームレートは 25 fps であり、このプロジェクト用の AAF シーケンスは 25 fps で Pro Tools からエクスポートされます。プログレッシブ HD プロジェクトでは、真のフレーム・レートがプロジェクト名に表示されます。たとえば、720p/59.94 のプロジェクトのフレームレートは 59.94 fps であり、このプロジェクト用の AAF シーケンスは 59.94 fps で Pro Tools からエクスポートされます。

Avid Interplay への対応

Windows 用の Media Composer と Pro Tools システムは、Avid の Interplay アセット管理システムとの統合に対応しています。

Avid Interplay では、アセットの管理、バージョンの追跡、パワフルなメタデータ、コメント機能などにより、Pro Tools および Avid エディタを各プロジェクトのワークフローに統合することができます。Interplay はまた、データ・フローを自動化し、エラーを排除し、ユーザーを複雑なインポート / エクスポート手順から守ります。

Interplay システムに接続しているとき、Media Composer では以下のことが行えます。

- Interplay からプロジェクトおよびシーケンスをチェックアウトし、必要に応じて Pro Tools からメディアをエクスポートします。
- Pro Tools で作成されたオーディオを含むプロジェクトおよびシーケンスにチェックインします。

Pro Tools Interplay Option を装備している場合、Pro Tools では以下のことが行えます。

- Pro Tools に対して特別にフォーマットされた AAF シーケンスを Interplay から直接開きます。
- 既存のオーディオ・トラックを追加または置き換え、オーディオ・トラックを Interplay のシーケンスへエクスポートします。

以下のワークフローについて詳しくは、「Pro Tools Avid Interplay ガイド」をお読みください。

- シーケンスを Pro Tools 用 Interplay へチェックインする
- Interplay から Pro Tools にシーケンスをインポートする
- 編集済みオーディオ・トラックを Pro Tools から Interplay へエクスポートする
- Media Composer へ Pro Tools のオーディオ・トラックをインポートする

Avid Unity ISIS および MediaNetwork ストレージ・シス テムへの対応

Avid Unity ISIS および Unity MediaNetwork は、ギガビットイーサネット接続（ISIS の場合）またはファイバー・チャンネル接続（MediaNetwork の場合）を介した複数のユーザーによる保存および共有を可能にする、高速ネットワーク・ストレージ・システムです。

Media Composer および他の Avid ビデオ・アプリケーションでは、Unity システムを使用し以下のとおり同一のメディアを共有することができま

- ・ リアルタイムでのオーディオおよびビデオのストリーミング
- ・ Pro Tools、Avid、AAF、OMF、MXF オーディオおよびビデオ・シーケンスの共有
- ・ Avid Interplay のアセット・マネジメント・システムを使って AAF シーケンスを共有（Avid Interplay システムが必要）。

Pro Tools は、Unity システムを使って以下のとおり Avid ビデオ・システムとメディアを共有できます。

- ・ リアルタイムでのオーディオおよびビデオのストリーミング（Windows のみ）
- ・ プッシュ・プルのワークフローでオーディオとビデオのメディアを共有（Mac と Windows）
- ・ Pro Tools、Avid、AAF、OMF、MXF のオーディオとビデオのシーケンスを共有
- ・ Avid Interplay のアセット・マネジメント・システムを使って AAF シーケンスを共有（Avid Interplay システムが必要、Windows システムのみ）。

Avid 用語

このセクションでは、基本的な Avid 用語と、それに対応する Pro Tools の用語を説明します。

クリップ Media Composer のクリップは、Pro Tools のファイル・リージョン全体の様なものです。クリップとは、1つのビデオ・ファイルと2つのオーディオ・トラックなど、同期して再生される1つまたは複数のメディア・ファイルを示しています。クリップは、ビン内に保存されま

サブクリップ Media Composer のサブクリップは、Pro Tools の1つのリージョンの様なものです。クリップから作成された、より短いクリップです。サブクリップもビン内に保存されます。

Avid シーケンス Avid シーケンスは、Pro Tools セッションの様なものです。Avid シーケンスは、タイムライン上にまとめられたクリップとサブクリップの集合体です。シーケンスは、ビン内に保存されます。

AAF/OMF シーケンス AAF と、それよりさらに古い OMF は、アプリケーション間でのシーケンスのやりとりに対して特別に設計された標準です。

Media Composer と Pro Tools では、AAF および OMF シーケンスのインポートと再生が行えます。Media Composer では、Avid シーケンスを AAF または OMF シーケンスとしてエクスポートし、Pro Tools へインポートすることができます。

Pro Tools では、セッションからトラックを AAF または OMF シーケンスとしてエクスポートし、Media Composer または Avid 編集アプリケーションへインポートすることができます。

ビン ビンは、クリップやシーケンスを整理するフォルダのようなものです。ビンは、個別のプロジェクト・フォルダ内に保存されます。

プロジェクト プロジェクトでは、複数のビンを整理することができます。ビンは、プロジェクト間で共有することもできます。

1つのプロジェクト内に、すべてのビデオ・クリップを含むビン、サウンド・エフェクト含むビン、シーケンスを含むビンをそれぞれ作成することも可能です。このプロジェクトを閉じてから新規プロジェクトを開き、サウンド・エフェクト・ビンを最初のプロジェクトから開いて別のシーケンスで同じオーディオを使用することが出来ます。プロジェクトは、ユーザーが定義する任意のロケーションに保存されます。

ソース・モニター ソース・モニターは、タイムライン上にあるビデオ・ウィンドウ（左側）です。ソース・モニターを使って、タイムライン上のシーケンスに加える対象を選択します。

レコード・モニター レコード・モニターは、タイムライン上にあるビデオ・ウィンドウ（右側）です。タイムライン上のシーケンス再生がレコード・モニターに表示されます。

タイムライン Media Composer のタイムラインには、Pro Tools 同様、直線上に配列されたさまざまなオーディオおよびビデオが表示されます。

クライアント・モニター クライアント・モニターは、Media Composer のビデオ出力の表示に使用される外部 NTSC、PAL、HD、DVI モニターです。

Pro Tools と Avid のその他の用語対応

Pro Tools	Avid
プラグイン	リアルタイム・オーディオ・エフェクト
オートメーション	オートメーション・ゲイン（クリップベース・ゲインまたはキーフレーム・ゲイン）
ディスクにパウン ス	ビデオ・ミックスダウン

 **ファイル・リージョン**は、通常、Pro Tools リージョン・リストに太文字で表示されます。しかし、AAF/OMF シーケンスから Pro Tools ヘインポートされたマスター・クリップ・オーディオ・ファイルは、オーディオ・ファイルであっても太文字で表示されません。

AAF、OMF、MXF の基本

AAF と OMF は、異なるアプリケーションやオペレーティング・システムの間（Pro Tools と Avid ビデオ編集アプリケーションの間など）でプロジェクトを自由に交換することができるよう、メディア・データとメタデータを保存する形式です。

メディア・データとメタデータによって、AAF や OMF シーケンスを受け取るアプリケーションは、プロジェクトを再構成することができます。簡単に言えば、メディア・データはパズルの一片であり、メタデータはそれを組み上げる指示書です。

最も単純な場合は、AAF または OMF シーケンスだけが交換されます。シーケンスが既存のメディア・データを参照している場合、シーケンス・ファイルは比較的小さくなり、エクスポート / インポートの処理が比較的速くなります。

AAF や OMF シーケンスに、メディア・データを含めることもできます。この場合は、ひとつのファイルにすべての情報が含まれているため、エクスポート / インポートの処理が遅くなりますが、別々の場所に保存した数多くのファイルを管理する必要がありません。

Pro Tools は、オーディオ・メディアを含む AAF および OMF シーケンスに対応しています。

DigiTranslator を伴う Pro Tools は、シーケンスを Video Satellite のトラックヘインポートする場合を除き、ビデオ・メディアを含む AAF および OMF シーケンスに対応していません。このような場合は、ビデオのメタデータのみがトラックヘインポートされます。

 *本ユーザー・ガイドの目的に合わせ、古い OMF シーケンス規格ではなく、AAF シーケンスに重点を置いて説明しています。*

MXF

MXF は、メディア・ファイル形式のひとつです。MXF ビデオ・ファイルと MXF オーディオ・ファイルがありますが、「MXF シーケンス」はありません。AAF シーケンスは MXF のメディア・ファイルを参照または含むことができますが、OMF シーケンスは MXF のファイルを参照することも含むこともできません。

MXF メディアに対する Media Composer の対応

Media Composer は、MXF メディアを扱うとき、以下の操作が行えます。

- ・メディアを作成するためにキャプチャー、変換、レンダリング、その他の方法を使用する際の MXF メディアの作成
- ・Avid アプリケーションで作成された MXF メディア・ファイルのインポート
- ・MXF オーディオおよびビデオ・ファイルのエクスポート

MXF メディアに対する Pro Tools の対応

Pro Tools は、MXF メディアを扱うとき、以下の操作が行えます。

- ・MXF ビデオ・メディアのリアルタイムでのキャプチャー（Avid ビデオ機器が必要）
- ・MXF のビデオ・メディアとオーディオ・メディアのインポート
- ・MXF オーディオ・メディアのエクスポート

Pro Tools は、MXF ビデオ・ファイルをエクスポートできません。

Pro Tools でデジタル化されるビデオ・ファイルは MXF 形式ですが、Pro Tools での使用のみを想定しており、他のアプリケーションとの互換性についての動作確認は行われていません。

AAF

AAF シーケンスは、プロジェクトのやりとりと大切なメタデータの維持に最適な方法です。AAF シーケンスは、外部の OMF と MXF メディア・ファイルを参照することができ、また OMF と MXF のメディア・ファイルを含むこともできます。AAF オーディオ・メディア・ファイル、AAF ビデオ・メディア・ファイルというものはありません。

AAF シーケンスに対する Media Composer の対応

Media Composer は、AAF シーケンスを扱うとき、以下の操作が行えます。

- ・ビデオ・ファイル（MXF または OMF）またはオーディオ・ファイル（MXF、WAV、AIFF）を含む AAF シーケンスのインポートおよびエクスポート
- ・外部の（リンクされた）ビデオ・ファイル（MXF または OMF）あるいはオーディオ・ファイル（MXF、WAV、AIFF）を参照する AAF シーケンスのインポートおよびエクスポート

AAF シーケンスに対する Pro Tools の対応

DigiTranslator を使った Pro Tools は、AAF シーケンスを扱うとき、以下の操作が行えます。

- ・外部の（リンクされた）MXF、WAV、AIFF オーディオ・ファイルを含むまたは参照する AAF シーケンスのインポートおよびエクスポート

- ・ 外部の（リンクされた）MXF または OMF ビデオ・ファイルを参照する AAF シーケンスのインポート
- ・ Video Satellite システムのみ：サテライト・トラックへのビデオを含む AAF シーケンスのインポート。この場合、Pro Tools にはメタデータ（カットとクリップ名）のみインポートされ、ビデオはインポートされません。

Pro Tools は、ビデオ・ファイル、トラック、メタデータを AAF シーケンスの一部としてエクスポートしません。

OMF

OMF は、メディア・ファイルであり、シーケンスでもあります。OMF のメディア・ファイルには、オーディオ・ファイルとビデオ・ファイルがあります。

OMF メディアとシーケンスに対する Media Composer の対応

Media Composer は、OMF メディアとシーケンスを扱うとき、以下の操作が行えます。

- ・ OMF ビデオ・ファイルおよび WAV または AIFF オーディオ・ファイルを含む OMF シーケンスのインポートおよびエクスポート
- ・ 外部の（リンクされた）OMF ビデオ・ファイルおよび WAV または AIFF オーディオ・ファイルを参照する OMF シーケンスのインポートおよびエクスポート

OMF メディアとシーケンスに対する Pro Tools の対応

DigiTranslator を使った Pro Tools は、OMF メディアとシーケンスを扱うとき、以下の操作が行えます。

- ・ Media Composer または他の Avid アプリケーションで作成された OMF ビデオ・ファイルのインポート
- ・ OMF オーディオ・ファイルのエクスポート

- ・ 外部の（リンクされた）オーディオ・ファイルを参照する OMF シーケンスまたはオーディオ・ファイルを含む OMF シーケンスのインポートと再生
- ・ 外部の（リンクされた）OMF ビデオ・ファイルを参照する OMF シーケンスのインポートと再生
- ・ 外部の（リンクされた）オーディオ・ファイルを参照する OMF シーケンスまたはオーディオ・ファイルを含む OMF シーケンスのエクスポート
- ・ Video Satellite システムのみ：サテライト・トラックへのビデオを含む OMF シーケンスのインポート。この場合、Pro Tools にはメタデータ（カットとクリップ名）のみインポートされ、ビデオはインポートされません。
- ・ Pro Tools は、ビデオ・ファイル、トラック、メタデータを OMF シーケンスの一部としてエクスポートしません。

組み込まれるメディア

OMF または AAF にメディアを組み込んでエクスポートすると、メタデータとすべてのメディア・ファイルを含むひとつの大きな OMF ファイルまたは AAF ファイルが作成されます。ただし、ファイルの大きさは 3.4 GB までに制限されますのでご注意ください。

メディア・データ（メディア・ファイル）

メディア・データとは、オーディオとビデオの素材が保存された個々のメディア・ファイルを指します。アプリケーションでオーディオやビデオをレコーディングする度に、そのメディア・データを含むメディア・ファイルが作成されます。オーディオ・メディア・データはサンプル単位（たとえば一秒あたり 44,100 または 48,000 サンプル）で保存され、ビデオ・メディア・データはフレーム単位（一秒あたり 24、25、30 フレーム）で保存されます。

メディア・ファイルの大きさは、保存されるオーディオとビデオの素材の量によって異なります。たとえば、10 分間の高解像度のビデオ素材を録画すると、ビデオ・メディア・ファイルは 1.8 GB になることがあり、すなわち 1 分あたり 180 MB の大きさになります。メディア・ファイルが比較的大きくなるのは、高品質のオーディオ信号やビデオ信号のデータ密度が高いからです。特にビデオ・データは、オーディオ・データよりもはるかに大きなディスク容量を必要とします。

MXF メディア・データのロケーション メディア・ストレージに指定されたボリュームに、Media Composer はすべての MXF メディアを保存します。

- ・ ローカルで保存する場合、MXF フォルダは [*Avid MediaFiles/MXF/1*] フォルダ内に置かれます。Media Composer は、Avid MediaFiles/MXF/2、Avid MediaFiles/MXF/3 などに置かれている MXF メディアを読み込むこともできます。
- ・ 共有環境で保存すると、MXF メディアは [*Avid MediaFiles/MXF/client.1*] ([*client*]) の部分はクライアント・コンピュータの名前を示す) という名のフォルダ内に置かれます。

本ガイドでこのフォルダについて参照する場合、ルート・フォルダ名 (*Avid MediaFiles*) を参照しています。

OMF メディア・データのロケーション Media Composer はすべての OMF メディアをメディア用ドライブとして指定したボリューム上の [*OMFI MediaFiles*] フォルダ内に保存します。

メタデータ (Metadata)

メタデータには、以下の情報が含まれます。

- ・ 各メディア・ファイルの情報 サンプルレート、ビット数、リージョン名、メディア・ファイルがキャプチャーされたビデオテープの名前、Pro Tools セッションで使用された際に設定されたタイムコード値などが含まれます。

- ・ どのファイルがタイムライン上のどこで使用されたか、またはオートメーションなど、Pro Tools セッションまたはその他のシーケンスの情報。
- ・ AAF や OMF シーケンスでは、Avid ワークステーション上のレンダリングされていない AudioSuite エフェクト (リアルタイム EQ など) も含みます。Pro Tools は、インポートの際レンダリングされていないエフェクトは無視します。レンダリングされたエフェクトはメディア・ファイルで、Pro Tools にインポートすることができ、また無視することもできます。
- ・ AAF や OMF シーケンスでは、オートメーション (クリップベース・ゲインやキープレーム・ゲイン) の情報も含みます。

ファイルに組み込まれるメディアとリンクされたメディア

AAF/OMF ファイルをエクスポートする際、メディア・ファイルを扱う方法は 2 つあります。

- ・ 組み込まれたメディア (メディア・ファイルは AAF または OMF シーケンス内に組み込まれる)
- ・ リンクされたメディア (メディア・ファイルは AAF または OMF シーケンスにより参照される)

DigiTranslator を使った Pro Tools では、オーディオ・ファイルを含む AAF または OMF シーケンスをインポートすることができます。ビデオ・ファイルを含む AAF または OMF シーケンスをインポートすることもできますが、シーケンスをビデオ・サテライト・トラックへインポートする際に限られます。このような場合、ビデオのメタデータはインポートされます。

フレームレート精度のビデオ編集とサンプルレート精度のオーディオ編集

Media Composer の編集はフレーム単位です。つまり 30-fps のプロジェクトであれば、ビデオ一秒あたり 30 箇所の編集ができるということです。Pro Tools の編集はサンプル単位です。48-kHz のセッションでは、オーディオ一秒あたり最大 48000 箇所の編集ができます。

Pro Tools が Avid アプリケーション用に AAF や OMF をエクスポートする場合、オーディオ・ファイルがフレームの境界と一致している必要があります。そのためには、既存のオーディオ・リージョンを 3 つに分割する必要がある場合があります。たとえば、以下の図は、5 フレームのビデオ・クリップとそれに対応するオーディオ・リージョンを示しています。Pro Tools では、オーディオ・リージョンがビデオのフレームと一致していない場合があります。

フレーム精度のオーディオ・リージョンをエクスポートするために、Pro Tools では、オーディオ・メディアがフレームの境界に合わせて分割され、隙間が無音で埋められます。以下の図は、Media Composer へエクスポートされるオーディオ・リージョンを示しています。

[Avid との互換性を強制する] (Enforce Avid Compatibility) がオンになっている Pro Tools からトラックをエクスポートするのに [トラックを OMF/AFF としてエクスポート] (Export Selected Tracks as OMF/AFF) を実行すると、Avid ビン内に表示されるメディア・ファイル ([Sample Accurate Edit] と記されているファイル) の数が増えます。これらのファイルは、Media Composer がフレーム精度のオーディオを受け取れるよう、Pro Tools により作成される追加のメディア・ファイルです。インポートしたオーディオの一部をタイムラインでズームすると、サンプル精度の編集メディア・ファイルを見ることができます。

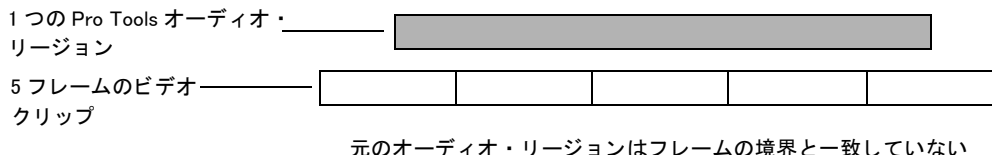


図 1. 元のオーディオ・リージョン

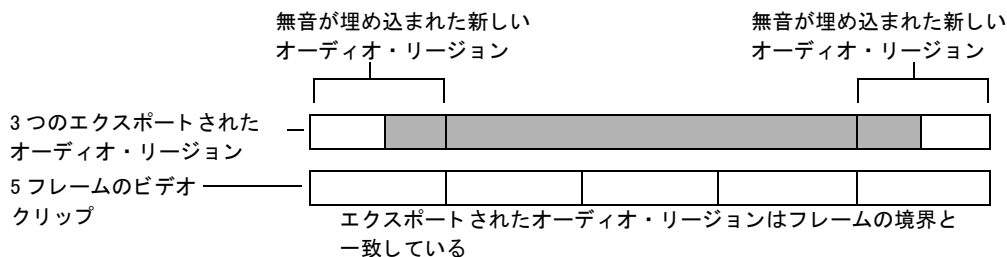


図 2. エクスポートされたオーディオ・リージョン

システムの必要条件と互換性

Video Satellite には、以下のシステム・コンポーネントが必要です。

- Digidesign が動作確認した Pro Tools|HD 用 Mac コンピュータまたは Windows コンピュータ
- SYNC|HD または SYNC|I/O を使った Pro Tools|HD システム
- Avid が動作確認した Media Composer 用 Mac コンピュータまたは Windows コンピュータ
- Media Composer のシステム ID 番号とシリアル番号、Avid のアプリケーション・キー (Media Composer に付属)
- Pace の iLok キー (Video Satellite オプションに付属)
- Avid ビデオ機器 (高品質のビデオ出力に必要)

 *Mac 用 Video Satellite システムは、Mac 用 Pro Tools システムでのみ動作確認されています。*

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェアとソフトウェアに対してのみ互換性を保証し、サポートを行います。

システム必要条件、および、Digidesign が動作を保証するコンピュータ、オペレーティングシステム、ハードディスク、他社の機器について、詳しくは以下の Digidesign のウェブサイトに掲載されている最新の一覧表をご覧ください。

www.digidesign.com/compatibility

Avid ビデオ機器

SD ビデオ (SD ビデオに変換した 1080 HD ビデオ) の高品質かつフレーム精度の再生には、コンポジット、コンポーネント、S-ビデオ、SDI (対応デバイス) の I/O 機能を持つ Avid ビデオ機器が必要です。

高品質かつフレーム精度のネイティブ HD ビデオ再生には、Nitris DX、Mojo DX、または Adrenaline と DNxcel カードなどの HD 対応 Avid ビデオ機器を追加する必要があります。

対応する Avid ビデオ機器

Media Composer は、以下の Avid ビデオ機器に対応しています。

- Avid Nitris DX
- Avid Mojo DX
- Avid Adrenaline とオプションの DNxcel カード
- Avid Mojo SDI
- Avid Mojo

Avid ビデオ機器を使用するときは、以下が必要です。

- NTSC/PAL ブラックバースト・ジェネレータ
または
- トライレベル・シンク・ジェネレータ (HD 対応 Avid ビデオ機器を使うとき)

Pro Tools ガイドについて

システムに付属の印刷版ガイドの他に、PDF 版の Pro Tools ガイドが Pro Tools と共にインストールされます。PDF 版ガイドの閲覧と印刷には、「Adobe Reader」または「Apple Preview」が必要です。

凡例

Digidesign のガイドでは、メニューの選択やキー・コマンドを以下の凡例に従って示します。

凡例	操作
[ファイル] (File) > [保存] (Save)	[ファイル] メニューから [保存] を選択します。
Control+N	Control キーを押したまま、N キーを押します。
Control-click	Control キーを押したまま、マウスをクリックします。
Right-click	マウスの右ボタンを押します。

画面に表示されるコマンド、オプション、設定の名前は角括弧で示します。

文中のマークは、以下の内容を表しています。

 Pro Tools システムを活用するために役立つアドバイス。

 Pro Tools セッションのデータや Pro Tools システムの処理能力に影響がある重要な注意。

 キーボードやマウスを使ったショートカット。

 その他の Pro Tools ガイドの関連セクションを示すクロスリファレンス。

www.digidesign.com について

Pro Tools システムを最大限に活用するため、Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com) をご利用ください。ウェブサイトでは、以下のようサービスを提供しています。

製品ユーザー登録 購入した製品をオンラインでご登録いただけます。

サポートとダウンロード 「テクニカル・サポート」と「カスタマーサービス」ではソフトウェアのアップデートやオンライン・マニュアルをダウンロードできます。「互換情報」では、システム対応状況などを確認できます。「アンサーベース」では、よくある質問を検索することができます。

トレーニング オンライン・コースで自習したり、Pro Tools の認定トレーニング・センターで実施している授業を調べてみましょう。

製品とディベロッパー ウェブの「製品情報」では、Digidesign 製品のデモ版をダウンロードできます。また、プラグイン、アプリケーション、ハードウェアなど開発パートナーの製品情報も掲載しています。

ニュースとイベント 「ニュース」には、Digidesign からの最新のお知らせを掲載しています。「イベント」では、Pro Tools デモンストレーションへの参加申込ができます。

ProTools 早わかりビデオ 無償チュートリアル・ビデオのシリーズをご覧ください。早わかりビデオは、Pro Tools とプラグインをスムーズに使い始めることができるように制作されています。

第 2 章

Video Satellite をインストールする

Pro Tools と Media Composer ビデオ・サテライトは、「ビデオ・サテライト・システム」と呼ばれ、以下のコンポーネントから構成されています。

- ・ 以下を持つ Pro Tools 専用のコンピュータ：
 - ・ Pro Tools|HD カード
 - ・ ProTools|HD オーディオ・インターフェース
 - ・ SYNC HD または SYNC I/O
 - ・ ビデオ・リファレンス (SYNC HD または SYNC I/O へ接続した)
 - ・ ローカルあるいは共有のオーディオ・ストレージ (Mac OS X 上ではローカル・オーディオ・ストレージが必要、共有ストレージはオプション)
- ・ Mac OS X、Windows Vista または Windows XP を起動し、以下を持つ Media Composer 専用のコンピュータ：
 - ・ オーディオおよびビデオに対するローカルあるいは共有のストレージ
 - ・ Avid ビデオ機器 (オプション)
 - ・ ビデオ再生用クライアント・モニター (オプション)
 - ・ ビデオ・リファレンス (Avid ビデオ機器および VTR に接続)
 - ・ VTR (オプション)
 - ・ 9 ピン・デッキ接続用 Keyspan USA-19HS アダプタ (Mac のみ)
 - ・ RS-232/422 変換シリアル・アダプタ (Mac のみ)

- ・ イーサネット・ハブを直接通したイーサネット接続、またはさらに大きなイーサネットネットワーク・ワーク上のイーサネット接続

Media Composer の Video Satellite オプションをインストールするには：

1 オプションのハードウェアをインストールします。14 ページの「ハードウェアをインストールする」をお読みください。

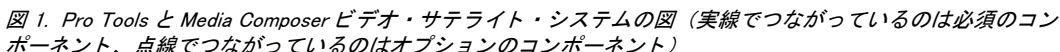
2 Media Compose をインストール：詳しくは、17 ページの「Media Composer ソフトウェアをインストールする」をお読みください。

3 Windows 上で Media Composer をインストールする場合は、nVidia ドライバをインストールし、nVidia ドライバ・サービスをオフにします。19 ページの「nVidia ドライバをインストールする」、19 ページの「nVidia ディスプレイ・ドライバ・サービスを無効にする」をお読みください。

4 Media Composer と Video Satellite オプションをオーソライズ：20 ページの「ビデオ・サテライト・システムをオーソライズする」をお読みください。

5 Media Composer と Pro Tools システムのイーサネット接続を確立：24 ページの「ビデオ・サテライト・システムでイーサネット接続を行う」をお読みください。

Pro Tools システムと Video Satellite を使うために必要なソフトウェアはデフォルトでインストールされます。



- ・ Avid ビデオ機器
- ・ オーディオのモニター設定
- ・ VTR

Media Composer のオーディオ出力のタイミングは、± 約 1/2 フレームとなります。これは、Pro Tools のオーディオ出力ほど正確ではありませんが、Pro Tools セッション内の

ただし、システムがビデオ・リファレンスに同期していることを示す[Pro Tools セッション設定]ウィンドウの[リファレンス]LED が点灯していることを確認してください。

- ・ ビデオ I/O
- ・ オーディオ I/O

- ・ デッキ・コントロール
- ・ ビデオ・リファレンス（ブラックバースト）

ビデオ I/O を VTR へ接続する

VTR を Avid ビデオ機器へ接続する

Avid ビデオ機器がシステムに接続されている場合、VTR のビデオ I/O を Avid ビデオ機器へ接続します。

VTR のビデオ I/O を Avid ビデオ機器へ接続するには：

- 1 Avid ビデオ機器の [Composite IN]、[Component IN]、[S-Video IN]、[SDI IN]、または [HD-SDI IN] コネクタを、ご使用の VTR の対応アウトプットへ接続します。
- 2 Avid ビデオ機器の [Composite OUT]、[Component OUT]、[S-Video OUT]、[SDI OUT]、または [HD-SDI OUT] コネクタを、ご使用の VTR の対応インプットへ接続します。

Avid ビデオ機器なしで VTR を接続する

Avid ビデオ機器がシステムには接続されておらず、VTR が FireWire 経由の DV ストリーミングとしてのオーディオとビデオの入出力に対応している場合は、VTR を直接 Media Composer のコンピュータへ接続します。

Avid ビデオ機器なしで VTR のビデオ I/O を接続するには：

- 1 1394（FireWire）ケーブルの一端を VTR の 1394 コネクタに接続します。

 これは、DV25、DVCPro 100、HDV などの DV ビデオ形式のみ対応しています。

- 2 1394（FireWire）ケーブルの別の一端を Media Composer のコンピュータの使用可能な FireWire ポートに接続します。

オーディオ I/O を VTR へ接続する

VTR のオーディオの入出力をメインの Pro Tools|HD オーディオ・インターフェースのオーディオの入出力へ接続します。

MachineControl と VTR を設定する

VTR は常にビデオ・サテライト・システム内の Media Composer によりコントロールされるため、ビデオ・サテライト・コンピュータを直接 VTR へ接続する必要があります。

VTR が DV ベースの場合（VTR が FireWire 経由でデッキ・コントロールを受ける）、VTR を FireWire を経由して Media Composer のコンピュータにへ接続します。

シリアル 9 ピン・ケーブルの接続は、FireWire 経由でデッキ・コントロール・コマンドを受ける DV ベースの VTR を使用している場合は必要ありません。

この場合、VTR と Media Composer のクライアント・コンピュータの間の FireWire 接続で十分であるため、シリアル 9 ピンケーブルは必要ありません。（対応情報について詳しくは、VTR の取扱説明書をお読みください。）

VTR に 9 ピン・コントロールが必要な場合、異なる設定を行う必要があります。

9 ピンを使って VTR を Mac コンピュータへ接続するには：

- 1 コンピュータの USB ポートへ Keyspan USA-19HS アダプタを差し込み、付属のドライバ・ソフトウェアをインストールします。

- 2 9 ピン RS-232/422 変換アダプタと RS-422 ケーブル（別売）を使って Keyspan のシリアル・ポートをデッキへ接続します。

9 ピンを使って VTR を Windows コンピュータへ接続するには：

- 1 9 ピン RS-232/422 変換アダプタと RS-422 ケーブル（別売）を使ってコンピュータの COM ポートをデッキへ接続します。

ビデオ・リファレンスを接続する

Avid ビデオ機器が Media Composer のコンピュータへ接続されている場合は、適切なビデオ・リファレンス信号（ブラック・バーストまたはトライレベル・シンク）が必要です。

⚠ プロジェクトを開く前に、適切な同期信号を Avid DNA 機器へ接続してください。

ビデオ・リファレンス信号を VTR に接続するには：

- ・ ブラックバーストまたはハウスシンク出力をご使用の VTR のビデオ入力（できればリファレンス・ビデオ入力）に接続します。

Avid Mojo SDI に対して Sync Lock を設定する

Avid Mojo SDI に接続されている Media Composer で新規プロジェクトを作成する際、Media Composer の Sync Lock は [Internal] にデフォルト設定されています。Avid Mojo SDI が外部ビデオ・リファレンスにロックできるよう、Sync Lock を [Reference] に変更することをお勧めします。

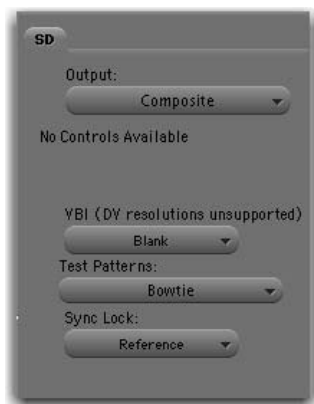
この設定はプロジェクト中は維持されますが、新規プロジェクトを開始する度にリセットされます。

💡 他の Avid ビデオ機器で新規プロジェクトを作成するときは、これらの手順に従う必要はありません。

Sync Lock を [Reference] に変更するには：

1 Media Composer で、[Tools]>[Video Output Tool] を選択します。

2 [Sync Lock] ポップアップメニューで、[Reference] を選択します。



ビデオ・アウトプット・ツール

Media Composer ソフトウェアをインストールする

Media Composer ソフトウェアをインストールするには (Macintosh) :

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2 [Avid Media Composer] ディスクを挿入します。
- 3 [Install Avid Editor Suite] をクリックし、画面の指示に従います。
- 4 メッセージが表示されたら、[Yes, restart my computer] をクリックします。

Media Composer ソフトウェアをインストールするには (Windows) :

- 1 コンピュータを起動し、管理者権限で Windows にログインします。[新しいハードウェアの検出] ウィザード・ダイアログ (接続されている Avid ハードウェアに対して) が表示されたら、そのままにしておきます。
- 2 起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 3 [Avid Media Composer] ディスクを挿入します。
- 4 [Install Avid Editor Suite] をクリックし、画面の指示に従います。
- 5 メッセージが表示されたら、[Yes, restart my computer] をクリックします。

Media Station|PT 2.7 からアップグレードする

(Windows のみ)

Media Station|PT がインストールされている Windows システムに Media Composer をインストールするときは、まず旧ソフトウェアをアンインストールしなければなりません。

Media Composer をインストールする前に Media Station|PT をアンインストールするには :

- 1 [スタート] > [コントロールパネル] を選択します。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
- 3 [現在インストールされているプログラム] リストから、任意の順に以下のいずれかを選択します。
 - Digidesign Pro Tools HD
 - AVoptionDNA
 - Avid Media Station|PT
 - Avid DNADiags
 - Avid Log Exchange
 - Avid Sentinel driver
 - EDL Manager
 - Interlok driver

アップグレードする Media Station のバージョンによっては、システムにないものもあります。

- 4 [変更 / 削除] をクリックします。
- 5 画面の指示に従って、ソフトウェアを削除します。



Pro Tools をアンインストールする場合、メッセージが表示されたら Pro Tools および Digidesign デバイス・ドライバを選択します。

6 以下のいずれかを行います。

- ・ アンインストール完了後、ソフトウェアのアンインストールをさらに続ける場合、[後で再起動]を選択し、すべてアンインストールされるまでこの手順を繰り返します。

または

- ・ ソフトウェアすべてのアンインストールが完了したら、コンピュータを再起動します。

7 Media Composer ソフトウェアをインストールし、オーソライズします。詳しくは、17 ページの「Media Composer ソフトウェアをインストールする」と 20 ページの「ビデオ・サテライト・システムをオーソライズする」をお読みください。

Media Composer の旧バージョンからアップグレードする

Media Composer の旧バージョンからアップグレードする場合は、Media Composer の旧バージョンと特定の関連ファイルを削除した方がよいでしょう。

Mac コンピュータへ新しいバージョンをインストールする前に Media Composer をアンインストールするには：

1 [Avid Uninstaller] アプリケーションを使って Media Composer をアンインストールする

2 以下の場所からプラグインの [Stereo Mixer.dpm] と [Surround Mixer.dpm] を削除します。

Macintosh HD/ ライブラリ /Application Support /Digidesign/Plug-Ins

3 システムを再起動します。

4 Media Composer ソフトウェアをインストールし、オーソライズします。詳しくは、17 ページの「Media Composer ソフトウェアをインストールする」と 20 ページの「ビデオ・サテライト・システムをオーソライズする」をお読みください。

Windows コンピュータへ新しいバージョンをインストールする前に Media Composer をアンインストールするには：

1 コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] を使って Media Composer をアンインストールします。

2 コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] を使って Digi Drivers をアンインストールします。

3 システムを再起動します。

4 Media Composer ソフトウェアをインストールし、オーソライズします。詳しくは、17 ページの「Media Composer ソフトウェアをインストールする」と 20 ページの「ビデオ・サテライト・システムをオーソライズする」をお読みください。

[簡易ファイルの共有を使用する]をオフにする

Windows XP 上で Media Composer を使う場合は、必ず[簡易ファイルの共有を使用する]をオフにしてください。

Windows XP の [簡易ファイルの共有を使用する] をオフにするには：

- 1 [スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]をダブルクリックします。
- 2 [マイコンピュータ]ウィンドウで、[ツール]>[フォルダ オプション]を選択します。
- 3 [フォルダ オプション]ダイアログで[表示]タブをクリックします。
- 4 [フォルダ オプション]ダイアログの[表示]タブで、[簡易ファイルの共有を使用する]オプションの選択を解除します。
- 5 [OK]をクリックします。

nVidia ドライバをインストールする

(Windows のみ)

Windows Vista と Windows XP で Media Composer を使用するには、nVidia ドライバをインストールする必要があります。

Windows 上で nVidia ドライバをインストールするには：

- 1 Windows Explorer で、以下に移動します。
C:\Program Files\Avid\Utilities\Nvidia.
- 2 実行可能なインストーラ・ファイルをダブルクリックします。
- 3 指示に従い、nVidia ドライバをインストールします。

nVidia ディスプレイ・ドライバ・サービスを無効にする

(Windows のみ)

Windows コンピュータ上で Media Composer を使用する前に、[nVidia Display Driver Service]を無効にしてください。

Windows Vista 上で [nVidia Display Driver Service] をオフにするには：

- 1 [????] ボタンをクリックします。
- 2 検索ボックスに services.msc とタイプします。UAC のメッセージが表示されたら、[続ける]をクリックします。
- 3 [Nvidia Display Driver] または [Nvidia Driver Helper Service] を右クリックします。
- 4 [プロパティ]をクリックします。
- 5 [スタートアップタイプ]>[無効]を選択します。
- 6 [OK]をクリックします。

Windows XP 上で [nVidia Display Driver Service] をオフにするには：

- 1 [マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択します。
- 2 [サービスとアプリケーション]をダブルクリックします。
- 3 [サービス]をダブルクリックします。
- 4 [Nvidia Display Driver] または [Nvidia Driver Helper Service] を右クリックします。
- 5 [プロパティ]をクリックします。
- 6 [スタートアップの種類]>[無効]を選択します。
- 7 [OK]をクリックします。

ビデオ・サテライト・システムをオーソライズする

Media Composer ソフトウェアと Video Satellite オプションの両方をオーソライズする必要があります。

Media Composer をオーソライズする

以下の方法の1つを使って Media Composer ソフトウェアをオーソライズしてください。

- Avid のアクティベーション・ツールを使って、インターネット上で Media Composer を自動的にオーソライズする

または

- Avid のカスタマー・サービスに電話して Media Composer を手動でオーソライズするか、または別のコンピュータのインターネット接続を使ってオーソライズする

または

- Media Composer のdongleを使ったバージョンからソフトウェア・ライセンスへアップグレードする

または

- Media Composer のdongleを使ったバージョンからアップグレードし、引き続きdongleを使ってソフトウェアをオーソライズする（最新のサービス契約が必要）

インターネットを使って Media Composer を自動的にオーソライズするには：

1 MediaComposerを起動します。[Activation]ツールが開きます。

2 [I want to activate my software using this computer's Internet connection] を選択します。

3 [Continue]をクリックします。[Avid Activation]ダイアログが開きます。

4 [System ID] テキスト・ボックスにシステム認証番号を入力します。システム ID は、Media Composer に付属の「Avid 編集アプリケーション・インストール・ガイド」の表紙の内側にあります。

5 [Serial Number] テキスト・ボックスにシリアル番号を入力します。シリアル番号は Media Composer に付属の「Avid 編集アプリケーション・インストール・ガイド」の表紙の内側にあります。

! *Media Composer* をオンラインで購入した場合は、システム ID とシリアル番号は Avid から電子メールでお届けしていません。

6 [Activate] をクリックします。[Activation] ツールがシステム情報を確認します。ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、ソフトウェアのアクティベーションが成功したことを示すメッセージが表示されます。

7 [OK] をクリックします。登録ダイアログが表示されます。

8 以下のいずれかを行います。

- Media Composer を今すぐ登録しない場合は [Register Later] をクリックします。[Special] > [Register Your Software] を選択すると、登録はいつでもできます。

または

- ・ Media Composer を今すぐ登録する場合は [Register] をクリックします。[Avid Product Registration] ウェブ・ページがデフォルトのブラウザで開き、システム情報が自動的に入力されます。

Media Composer のアクティベーションを手動で行うには：

- 1 Media Composer を起動します。[Activation] ツールが開きます。
- 2 [I want to activate my software by phone or by using another computer's Internet connection] を選択します。
- 3 [Continue] をクリックします。[Avid Activation] ダイアログが開きます。
- 4 [System ID] テキスト・ボックスにシステム ID を入力します。システム ID は、Media Composer に付属の「Avid 編集アプリケーション・インストール・ガイド」の表紙の内側にあります。
- 5 [Serial Number] テキスト・ボックスにシリアル番号を入力します。シリアル番号は Media Composer に付属の「Avid 編集アプリケーション・インストール・ガイド」の表紙の内側にあります。

 *Media Composer* をオンラインで購入した場合は、システム ID とシリアル番号は Avid から電子メールでお届けしています。

- 6 ソフトウェアのアクティベーションを電話で行う場合は、最寄の Avid サポートセンターにお電話ください。Avid サポートセンターの連絡先は、<http://www.avid.com/support/contact> でご確認ください。Avid の担当者がソフトウェアのアクティベーション・コードをお伝えします。アクティベーション・コードを入手したら、手順 12 にお進みください。

- 7 別のコンピュータを使ってソフトウェアのアクティベーションを行う場合は、そのコンピュータのウェブ・ブラウザを起動して、<http://activate.avid.com> の [Activation] ページを開いてください。

- 8 [Avid Machine ID] テキスト・ボックスにマシン ID を入力します。[Avid Machine ID] 番号は、[Avid Activation] ダイアログ・ボックスにあります。

- 9 [System ID] テキスト・ボックスにシステム ID を入力します。

- 10 [Serial Number] テキスト・ボックスにシリアル番号を入力します。

- 11 [Submit] をクリックします。[Avid Activation] ページがアクティベーション・コードを生成します。

- 12 このアクティベーション・コードを使用するシステムへコピーします。コードをテキスト・ファイルへコピーして USB ドライブなどの取り外し可能な記憶装置を使うか、またはネットワーク経由でコピーします。

- 13 [Avid Activation] ダイアログ・ボックスで、[Activation Code] テキスト・ボックスにアクティベーション・コードを入力します。

- 14 [Activate] をクリックします。[Activation] ツールがシステム情報を確認します。ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、ソフトウェアのアクティベーションが成功したことを示すメッセージが表示されます。

- 15 [OK] をクリックします。登録ダイアログが表示されます。

- 16 以下のいずれかを行います。

- ・ Media Composer を今すぐ登録しない場合は [Register Later] をクリックします。[Special] > [Register Your Software] を選択すると、登録はいつでもできます。

または

- Media Composer を今すぐ登録する場合は [Register] をクリックします。[Avid Product Registration] ウェブ・ページがデフォルトのブラウザで開き、システム情報が自動的に入力されます。

Media Composer を dongle からソフトウェア・ライセンスへ自動的にアップグレードするには：

- 1 [Avid Application Key] dongle がシステムへ取り付けられていることを確認します。
- 2 Media Composer を起動します。[Activation] ツールが開きます。
- 3 [I want to activate my software using this computer's Internet connection] を選択します。
- 4 [Continue] をクリックします。[Avid Activation] ダイアログ・ボックスが開き、[System ID] テキスト・ボックスに dongle の [System ID] が表示されます。
- 5 [Serial Number] テキスト・ボックスにシリアル番号を入力します。Avid から電子メールで受け取ったシリアル番号を使ってください。
- 6 [Activate] をクリックします。ソフトウェア・ライセンスのアクティベーションを行うと dongle の情報が更新されることを通知するメッセージ・ボックスが表示されます。
- 7 [Continue] をクリックします。[Activation] ツールがシステム情報を確認します。ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、ソフトウェアのアクティベーションが成功したことを示すメッセージが表示されます。
- 8 [OK] をクリックします。登録ダイアログが表示されます。
- 9 以下のいずれかを行います。
 - Media Composer を今すぐ登録しない場合は [Register Later] をクリックします。[Special] > [Register Your Software] を選択すると、登録はいつでもできます。

または

- 10 Media Composer を今すぐ登録する場合は [Register] をクリックします。[Avid Product Registration] ウェブ・ページがデフォルトのブラウザで開き、システム情報が自動的に入力されます。

Media Composer を dongle からソフトウェア・ライセンスへ手動でアップグレードするには：

- 1 [Avid Application Key] dongle がシステムへ取り付けられていることを確認します。
- 2 Media Composer を起動します。[Activation] ツールが開きます。
- 3 [I want to activate my software by phone or by using another computer's Internet connection] を選択します。
- 4 [Continue] をクリックします。[Avid Activation] ダイアログ・ボックスが開き、[System ID] テキスト・ボックスに dongle の [System ID] が表示されます。
- 5 [Serial Number] テキスト・ボックスにシリアル番号を入力します。Avid から電子メールで受け取ったシリアル番号を使ってください。
- 6 ソフトウェアのアクティベーションを電話で行う場合は、最寄の Avid サポートセンターにお電話ください。Avid サポートセンターの連絡先は、<http://www.avid.com/support/contact> でご確認ください。Avid の担当者がソフトウェアのアクティベーション・コードをお伝えします。アクティベーション・コードを入手したら、手順 12 にお進みください。
- 7 別のコンピュータを使ってソフトウェアのアクティベーションを行う場合は、そのコンピュータのウェブ・ブラウザを起動して、<http://activate.avid.com> の [Activation] ページを開いてください。
- 8 [Avid Machine ID] テキスト・ボックスにマシン ID を入力します。[Avid Machine ID] 番号は、[Avid Activation] ダイアログ・ボックスにあります。

9 [System ID] テキスト・ボックスにシステム ID を入力します。

10 [Serial Number] テキスト・ボックスにシリアル番号を入力します。

11 [Submit] をクリックします。[Avid Activation] ページがアクティベーション・コードを生成し、確認コードを求めるページが開きます。確認コードのページは閉じないでください。

12 このアクティベーション・コードを使用するシステムへコピーします。コードをテキスト・ファイルへコピーして USB ドライブなどの取り外し可能な記憶装置を使うか、またはネットワーク経由でコピーします。

13 [Avid Activation] ダイアログ・ボックスで、[Activation Code] テキスト・ボックスにアクティベーション・コードを入力します。

14 [Activate] をクリックします。[Activation] ツールがシステム情報を確認します。ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、ソフトウェアのアクティベーションが成功したことを示すメッセージが表示されます。

15 [OK] をクリックします。確認コードが表示されます。

16 インターネットへ接続されたコンピュータで、その確認コードを入力し、[OK] をクリックします。



[Confirmation Code] テキスト・ボックスが表示されない場合は、[Click here to enter your dongle confirmation code] をクリックしてください。

Media Composer をアップグレードし、引き続きドングルを使ってソフトウェアをオーソライズするには：

1 [Avid Application Key] ドングルがシステムへ取り付けられていることを確認します。



Media Composer の旧バージョンから最新バージョンへアップグレードする場合で、最新の Avid サービス契約がある場合のみ、ドングルを使ってアプリケーションのアクティベーションが行えます。この場合は、[Activation] ツールでドングルのオプションが選択できます。アップグレードと共にドングル・アップデート・カードを受け取ったら、アップグレード・キットの説明書をお読みください。

2 Media Composer を起動します。[Activation] ツールが開きます。

3 [I am upgrading from a previous version and would like to continue using my dongle] を選択します。

4 [Continue] をクリックします。[Activation] ツールがシステム情報を確認します。ソフトウェアのアクティベーションが完了すると、ソフトウェアのアクティベーションが成功したことを示すメッセージが表示されます。

5 [OK] をクリックします。

Video Satellite オプションをオーソライズする

Video Satellite オプションをオーソライズするには：

・ Video Satellite オプション用にオーソライズされた iLok キーを Media Composer のコンピュータの使用可能な USB ポートへ挿入します。

Windows のシステムをオーソライズする場合は、コンピュータが iLok キーを識別したことを示すダイアログが表示されます。

以前に Avid Media Station|PT と Video Satellite オプションを使用していた場合は、そのオプションに付属していた iLok のオーソリゼーションを引き続き使えます。Pro Tools システム上のオーソリゼーションは、オーソライズする Media Composer システムへ移動しなければなりません。

オーソリゼーションが iLok キー自体にある場合は、単にその iLok キーを Pro Tools システムから Media Composer システムの空いている USB ポートへ移動します。

その iLok キーに他のソフトウェアのオーソリゼーションがあり、Pro Tools システムから移動できない場合は、iLok キーをもう 1 つ購入し（最寄のディーラーまたは Digidesign のウェブサイト www.digidesign.com から）、[Video Satellite Option PT 7.4] という名前のオーソリゼーションを www.ilok.com から iLok キーへ転送する必要があります。

これが完了すると、新しい iLok キーを使って Media Composer システム上の Video Satellite オプションをオーソライズできます。

ビデオ・サテライト・システムでイーサネット接続を行う

遠隔操作でマウントされたストレージでトランスポート・コマンドとファイルを受け渡すため、ビデオ・サテライト・システム内のコンピュータは、100 Base-T または 1000 Base-T 接続を使用する標準 TCP/IP プロトコルのイーサネット経由で通信します。コンピュータは、ハブまたはスイッチ経由で直接またはローカル・エリア・ネットワーク（LAN）経由のいずれかで接続できます。

直接接続する

以下のいずれかの場合には直接接続を使用します。

- ・サテライトが常に同じ Pro Tools システムに接続されている場合
- ・LAN が使用できない場合

- ・他のネットワーク通信との LAN 上でのコンフリクトを防ぐため

システムを直接接続するには：

- 1 Pro Tools と標準イーサネット・ハブまたはスイッチの間に CAT5e イーサネット・ケーブルを接続します。
- 2 別の CAT5e ケーブルを Media Composer システムとそのハブまたはスイッチの間に接続します。

A ハブまたはスイッチのないクロスオーバー・イーサネット・ケーブルを使った直接接続は、システムによっては機能しますが、動作確認はされていません。

LAN 接続を使用する

以下のいずれかの場合は、LAN を使用します。

- ・ビデオ・サテライトが Pro Tools システムとは別の部屋に置かれている場合
- ・LAN 上の Pro Tools のコンピュータと Media Composer のコンピュータでインターネットへアクセスするか、ネットワーク上の別のロケーションに接続したい場合

ビデオ・サテライト・システムを LAN へ接続するには：

- 1 両方のシステムを標準 100 Base-T または 1000 Base-T イーサネット・ネットワークへ接続します。
- 2 両方のシステムが同じサブネット上で動作していることを確認してください。

デフォルトでは、両方のシステムは TCP/IP ポート 28282 経由で通信しますが、必要に応じて変更することができます。



再起動のたびに IP アドレスを入力しなければならないようなら、DHCP をオフにしてみてください。

Media Composer を Pro Tools へ接続する

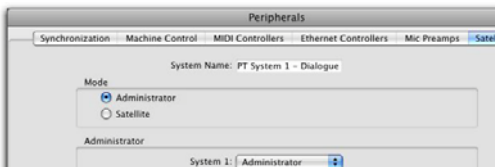
Media Composer システムをビデオ・サテライトとして Pro Tools と共に使う前に、この 2 つのシステムの接続をイーサネット上で確立する必要があります。Pro Tools システムは[アドミニストレータ]として、Media Composer システムは[サテライト]として設定する必要があります。

Media Composer システムをビデオ・サテライトとして設定するには：

- 1 [Project] ウィンドウで、[Settings] タブをクリックし、[Video Satellite] をクリックします。
- 2 [Video Satellite Settings] ウィンドウで、[Video Satellite Mode] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

Pro Tools システムをアドミニストレータとして設定するには：

- 1 [設定] (Setup) > [ペリフェラル] (Peripherals) を選択し、[サテライト] (Satellites) をクリックします。
- 2 [システム名] (System Name) テキスト・ボックスで、システムの名前を入力します。
- 3 [モード] (Mode) の下で、[アドミニストレータ] (Administrator) を選択します。
- 4 [アドミニストレータ] (Administrator) の下で、[システム] (System) ポップアップメニューから現在のシステムを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。



[ペリフェラル] ダイアログの [サテライト] ページでサテライトを設定する

Media Composer システムをサテライトとして設定すれば、アドミニストレータのシステムから選択できるようになります。

第 3 章

ビデオ・サテライトのワークフロー

この章では、ビデオ・サテライトとして設定されている Media Composer と Pro Tools を使うための以下のワークフローを説明します。

- ・ ビデオ・アウトプット設定を変更する
- ・ リモート・システムのメディア・ストレージをクロスマウントする
- ・ 送信された Avid シーケンスを Avid ビンで開く
- ・ 別の Avid アプリケーションまたは Pro Tools からエクスポートされた AAF シーケンスを開く
- ・ Pro Tools をサテライトへ接続する
- ・ Pro Tools をサテライトへリンクする
- ・ オーディオおよびビデオをキャプチャーする
- ・ オーディオおよびビデオを一括キャプチャーする
- ・ オーディオおよびビデオをレイバックする
- ・ オーディオおよびビデオをデジタルでエクスポートする

ビデオ・アウトプット設定を変更する

このセクションでは、Media Composer のプロジェクトに対して以下のビデオ出力設定を変更する方法について説明します。

- ・ ビデオの品質
- ・ フルスクリーン再生設定

ビデオの品質を変更する

Media Composer のタイムラインには、ビデオの品質を変更することのできるビデオ・クオリティ・アイコンがあります。この設定は、各プロジェクトに対して保存されます。



ビデオ・クオリティ・アイコン（タイムライン最下部）

アイコンをクリックし、ビデオの品質を以下の通り変更します。

ドラフト品質（黄 / 緑） 1/4 解像度の画像をすべてのモニターに出力しますが、さらに多くのリアルタイム・ビデオ・エフェクトを使用することができます。これは、新規プロジェクトに対するデフォルト設定です。

ベスト・パフォーマンス品質（黄） 1/16 解像度の画像を出力し、ほとんどのリアルタイム・エフェクトに対応していますが、出力の品質は最も低くなります。

フル品質（緑） 接続されているビデオ機器を使って、最高解像度の画像を出力します。[Video Quality Menu] で [Full Quality] が、[Full Screen Playback] ダイアログで [Display Both Fields] が選択されているのでない限り、DVI アウトプットは常にドラフト品質となります。この設定と [Full Screen Playback Settings] ダイアログの [Display Both Fields] オプション（28 ページの「フルスクリーン再生のビデオ・アウトプット設定を変更する」参照）と組み合わせると、DVI ポートに最高解像度で出力することができます。

💡 デジタル・カットを行うと、テープ・デッキへの出力が自動的にフル品質に変更されます。

フルスクリーン再生のビデオ・アウトプット設定を変更する

フルスクリーン再生設定ダイアログでは、フルスクリーン再生の出力に対する以下の追加変更を行います。

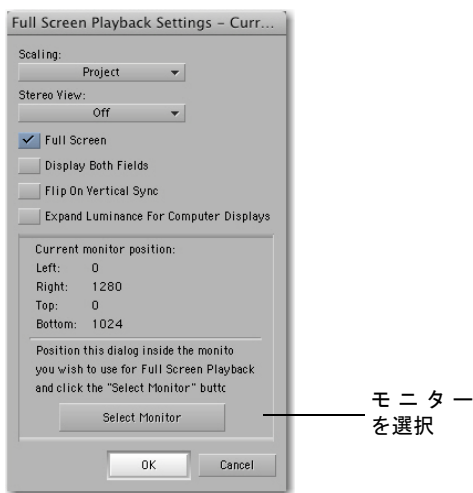
- ・ビデオ・アウトプット・モニターを変更（1 つ以上のモニターが接続されている場合）
- ・フルスクリーン再生でのフレームのテアリングを防ぐ
- ・標準コンピュータ・モニターの輝度を調整

ビデオ・アウトプット・オプションを変更するには：

1 プロジェクト・ウィンドウの [Settings] タブをクリックします。

2 [Full Screen Playback] 設定をダブルクリックします。

3 複数のモニターに対する設定でビデオ・アウトプット・モニターを指定するには、[Full Screen Playback Settings] ダイアログをドラッグしてビデオ・アウトプット・モニターに指定するモニター上に表示します。



[Full Screen Playback Settings] ダイアログ

4 [Select Monitor] を選択します。

5 以下のオプションを変更することもできます。

[Display Both Fields]（両フィールドを表示） この設定とビデオ・クオリティ・アイコン（27 ページの「ビデオの品質を変更する」参照）のフル品質設定を組み合わせることにより、DVI ポートへ最高解像度で出力することができます。

[Flip On Vertical Sync]（垂直同期をオン） ビデオ出力に「テアリング」（急速に移動したり編集の多いシーケンスに生じる水平方向のゆがみ）が生じていることが判明した場合、このオプションを選択します。

⚠ これらの設定を変更すると、同期に問題が生じたり、ビデオ出力がとぎれることがあります。

[Expand Luminance for Computer Displays] (コンピュータ・ディスプレイの輝度を拡張する) フルスクリーン再生を標準コンピュータ・モニターへ出力する場合、このオプションを選択するとビデオ画像がさらに正確になります。コンポーネント、DVI、HDMI 出力を介してフルスクリーン再生を商用品質のモニターに出力する場合、このオプションの選択を解除します。

6 [Save] をクリックして、変更を保存します。

ビデオ・フレーム・レート対モニター更新レート

フレーム・レートとは異なる更新レートでビデオを再生すると (DVI 出力を通してビデオを再生するときによくあるケース)、画像が乱れオーディオとビデオの同期がずれます。たとえば 24fps のビデオ・クリップを更新レート 75Hz の DVI モニターで再生すると、この現象が起きます。

高品質の再生を必要とするワークフローでは、Avid ビデオ機器を通して NTSC または PAL のモニターへビデオを出力しなければなりません。

アーティファクトとオーディオ / ビデオの同期の問題は以下のように起きます。

フレームの「テアリング」とビデオの「スタッター」 フレームの「テアリング」は、動きの速いシーケンスや場面の多いシーケンスで起きる水平方向の歪みです。ビデオの「スタッター」は、再生中のビデオの位置の微妙な変化です。

この問題のいずれか (両方ではなく一方) は、[Full Screen Playback Settings] ダイアログの [Flip On Vertical Sync] オプションを使って緩和できます。

 28 ページの「フルスクリーン再生のビデオ・アウトプット設定を変更する」をお読みください。

オーディオ / ビデオの同期オフセット オーディオ / ビデオの同期はフレームごとに少しだけ変化します。通常、目で見て分かるほどではありませんが、さらに精密な計測装置では、最大 1/2 フレームの AV 同期のオフセットが示されます。これは、コンピュータのモニター・カードの出力を使用しているときの正常な状態で、キャプチャー、編集、レイバックには影響しません。

 詳しくは、28 ページの「フルスクリーン再生のビデオ・アウトプット設定を変更する」をお読みください。

リモート・システムのメディア・ストレージをクロスマウントする

Pro Tools とサテライト・システムの間でのシーケンスおよびメディア・ファイルの転送を簡素化するには、一つのシステムのメディア・ストレージを別のシステムのデスクトップへマウントすると便利です。この方法はクロスマウントと呼ばれ、このストレージをマウントするコンピュータはリモート・システムと呼ばれます。

たとえば、サテライト・システムに物理的に接続されているビデオ・ストレージをサテライト・システムと Pro Tools システムの両方に表示させたい場合があります。また、ワークフローによっては、オーディオ・ストレージ (Pro Tools システムに物理的に接続されている) がサテライト・システムのデスクトップにも表示される方が便利な場合もあります。

オーディオまたはビデオ・ストレージをリモート・システムにクロスマウントするには、以下の手順で行います。

- 1 ストレージ設定を選択する
- 2 リモート・システムにボリュームがマウントされるよう任意のボリュームを共有する
- 3 共有ボリュームをリモート・システムにマウントする

ストレージ設定を選択する

オーディオおよびビデオ・ストレージを両方のシステムに同時にクロスマウントすることは可能ですが、この章で説明するワークフローでは、どちらかのシステムにクロスマウントするだけでかまいません。

ビデオ・ストレージを Pro Tools システムにマウントすることは、多くの一般的なサテライト・ワークフローに適しています。

以下のワークフローのいずれかを頻繁に使用する場合、オーディオ・ストレージをサテライト・システムへマウントします。

- 追加オーディオ・ファイルを伴う AAF シーケンスの更新バージョンを受信する。
- Pro Tools からオーディオをエクスポートし、Media Composer ヘインポートする。
- サテライト・システムが共有ストレージ・システムに接続されているが、Pro Tools システムは接続されていない。
- サテライト・システムが Avid Interplay に接続されているが、Pro Tools システムは接続されていない。

リモート・システムへマウントするためにメディア・ストレージを共有する

このセクションでは、リモート・コンピュータにマウントするためにメディア・ストレージを共有する方法について説明します。

Windows でマウントするため Mac OS 10.5.x のメディア・ストレージを共有する

リモートの Windows マシンにマウントできるよう、Mac OS 10.5.x のボリュームを共有することができます。

Mac OS 10.5.x でファイル共有を有効にするには：

1 以下のいずれかの方法でボリュームやフォルダを共有します。

- 共有するボリュームまたはフォルダを右クリックし、[共有フォルダ] ボックスにチェックを入れます。

または

- [システム環境設定]>[共有]を開き、[共有フォルダ]の下の+アイコンを使って共有するボリュームまたはフォルダへ移動します。

2 [システム環境設定]>[共有]で、[ファイル共有]を選択し、そのコンピュータの名前をメモします。

3 [ユーザー]の下で、共有フォルダまたは共有ボリュームごとに権限を設定します。

4 [オプション]を選択し、[SMB を使用してファイルやフォルダを共有]をチェックし、共有データへアクセスする必要があるアカウント名をすべてチェックします。

リモート・コンピュータへマウントするために Windows Vista メディア・ストレージを共有する

Mac OS X または別の Windows システムへマウントするために Windows Vista ボリュームを共有することができます。処理は、共有するコンピュータがドメインの一部であるかワークグループの一部であるかによって少し異なります。

Windows Vista のボリュームを共有するには：

- 1 共有するボリュームを含む Windows Vista コンピュータ上で、[スタート]をクリックし、[コンピュータ]をクリックします。
- 2 共有するボリュームを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- 3 [プロパティ]ダイアログで、[セキュリティ]タブをクリックします。
- 4 [編集]をクリックします。
- 5 [... のアクセス許可]ウィンドウで、[追加]をクリックします。
- 6 [グループ名またはユーザー名]で、[詳細設定]をクリックします。
- 7 [今すぐ検索]をクリックし、[OK]をクリックします。
- 8 [グループ名またはユーザー名]に[Everyone]が表示されるまで各ウィンドウの[OK]をクリックします。
- 9 アクセス許可を設定します。

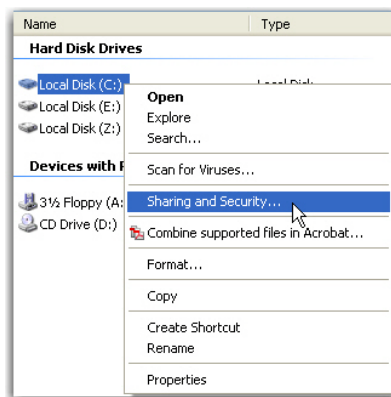
これで共有ボリュームを別のコンピュータへマウントする準備ができました。34 ページの「共有メディア・ストレージをリモート・システムにクロスマウントする」をお読みください。

リモート・コンピュータへマウントするために Windows XP メディア・ストレージを共有する

Mac OS X または別の Windows Vista または Windows XP システムへマウントするために Windows XP ボリュームを共有することができます。処理は、共有するコンピュータがドメインの一部であるかワークグループの一部であるかに応じて少し異なります。

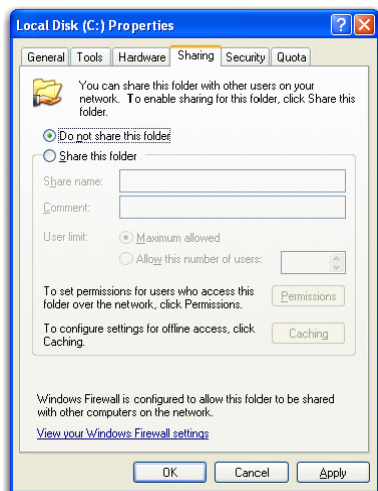
ドメイン上の Windows XP ボリュームを共有するには：

- 1 共有するボリュームを含む Windows XP コンピュータ上で、[マイコンピュータ]をダブルクリックします。
- 2 共有するボリュームを右クリックし、[共有とセキュリティ]を選択します。



[共有とセキュリティ]を選択する

3 [プロパティ] ダイアログで、[共有] タブをクリックします。



[プロパティ] ダイアログ、[共有] タブ

- 4 [このフォルダを共有する] オプションを選択します。
- 5 [共有名] フィールドに名前をタイプ入力し、この共有を識別します。この名前は任意で付けることができますが、共有ボリュームの名前を使用するのが一番簡単です。

💡 可能な限り、各フォルダだけでなくボリューム全体を共有する必要があります。こうすることで、Pro Tools セッション内のファイルの再リンクが簡単になります。

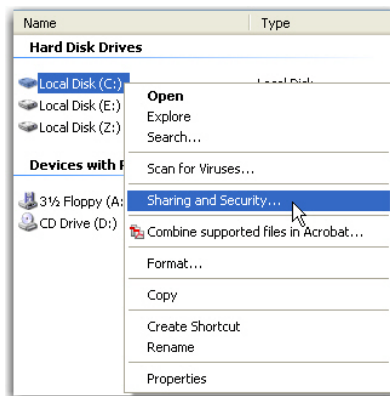
- 6 このダイアログで他のオプションを選択します。
- 7 [OK] をクリックしてこのボリュームを共有します。

これで共有ボリュームを別のコンピュータへマウントする準備ができました。34 ページの「共有メディア・ストレージをリモート・システムにクロスマウントする」をお読みください。

💡 ファイルを Mac ボリュームからマウントされている WindowsXP ボリュームへ手動でコピーする際、コピーする各ファイルに「ゴースト」ファイルが表示されます。ゴースト・ファイルには元のファイルとほとんど同一の名前が付けられますが、名前の前に「_」が付けられ、灰色のアイコンが表示されます。たとえば、ファイル名 Macintosh.doc をコピーすると、「_Macintosh.doc」という名の別のファイルが作成されます。これらのファイルは、他のどこにも影響を与えず、削除しても問題が生じることはありません。

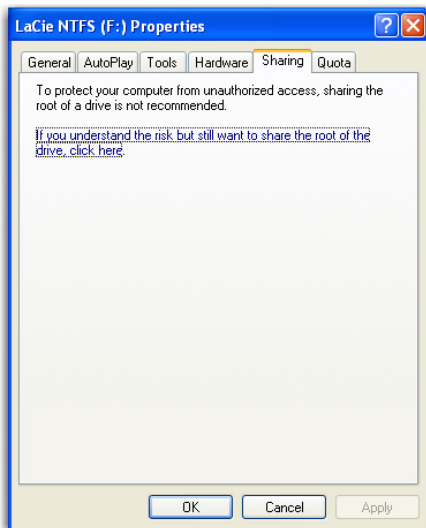
ワークグループ上の Windows XP ボリュームを共有するには：

- 1 共有するボリュームを含む Windows XP コンピュータ上で、[マイコンピュータ] をダブルクリックします。
- 2 共有するボリュームを右クリックし、[共有とセキュリティ] を選択します。



[共有とセキュリティ] を選択する

3 [プロパティ] ダイアログで、[共有] タブをクリックします。

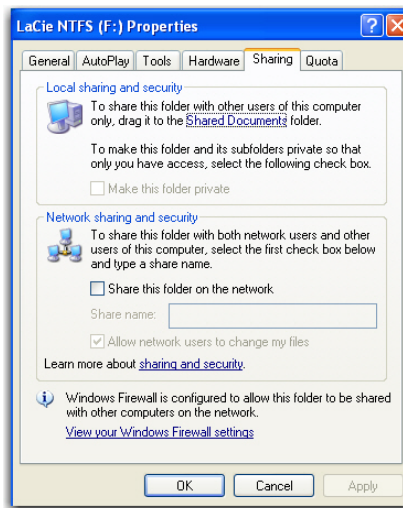


[プロパティ] ダイアログ、[共有] タブ

4 同意する場合、[危険を認識した上でドライブのルートに共有する場合はここをクリックしてください。]をクリックします。

5 [このフォルダをネットワークで共有]を選択します。

6 [共有名] フィールドに名前をタイプ入力し、この共有を識別します。この名前は任意で付けることができますが、共有ボリュームの名前を使用するのが一番簡単です。



[プロパティ] ダイアログ、[共有] タブ

💡 可能な限り、各フォルダだけでなくボリューム全体を共有する必要があります。こうすることで、Pro Tools セッション内でのファイルの再リンクが簡単になります。

7 他のネットワーク・ユーザーがファイルを変更できるようにする場合、[ネットワーク ユーザーによるファイルの変更を許可する]を選択します。

8 [適用]をクリックします。

9 [OK]をクリックしてこのボリュームを共有します。

これで共有ボリュームを別のコンピュータへマウントする準備ができました。34 ページの「共有メディア・ストレージをリモート・システムにクロスマウントする」をお読みください。



ファイルが Mac ボリュームからマウントされている Windows XP ボリュームへ手動でコピーする際、コピーする各ファイルに「ゴースト」ファイルが表示されます。ゴースト・ファイルには元のファイルとほとんど同一の名前が付けられますが、名前の前に「.」が付けられ、灰色のアイコンが表示されます。たとえば、ファイル名 `Macintosh.doc` をコピーすると、「.Macintosh.doc」という名の別のファイルが作成されます。これらのファイルは、他のどこにも影響を与えず、削除しても問題が生じることはありません。

Windows でマウントするため Mac OS 10.5.x のメディア・ストレージを共有する

リモートの Windows マシンにマウントできるよう、Mac OS 10.5.x ボリュームを共有することができます。

Mac OS 10.5.x 上でファイル共有を有効にするには：

1 以下のいずれかの方法で、共有するボリュームやフォルダを有効にします。

- 共有するボリュームまたはフォルダを右クリックし、[共有フォルダ]ボックスにチェックを入れます。

または

- [システム環境設定]>[共有]を開き、[共有フォルダ]の下ので + アイコンを使って共有するボリュームまたはフォルダへ移動します。

2 [システム環境設定]>[共有]で、[ファイル共有]を選択し、そのコンピュータの名前をメモします。

3 [ユーザー]の下で、共有フォルダまたは共有ボリュームごとに権限を設定します。

4 [オプション]を選択し、[SMB を使用してファイルやフォルダを共有]をチェックし、共有データへアクセスする必要があるアカウント名をすべてチェックします。

共有メディア・ストレージをリモート・システムにクロスマウントする

このセクションでは、共有ボリュームをリモート・システムにクロスマウントする方法について説明します。

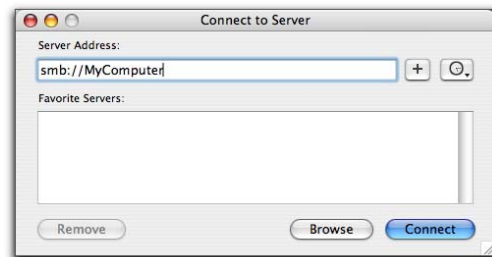
Windows メディア・ストレージを Mac OS X にマウントする

共有されている Windows ボリュームを Mac OS X にマウントすることができます。

共有されている Windows XP ボリュームを Mac OS X にマウントするには：

1 Mac OS X で、デスクトップへ移動します。

2 [移動]>[サーバへ接続]を選択します。



[サーバへ接続]ダイアログ

3 [サーバアドレス]フィールドに、**SMB://computer** と入力します。**computer** には、ボリュームを含むまたはボリュームに接続されているコンピュータ名を入力します。

💡 Windows マシンの名前を確認するには：
Windows コンピュータで、[マイコンピュータ]を右クリックして[プロパティ]を選択してから、[プロパティ]ウィンドウで[コンピュータ名]タブをクリックします。

たとえば、**MyComputer** という名の Media Composer のコンピュータに接続するには、以下のように入力します。

SMB://MyComputer

4 [接続]をクリックします。

5 システム認証ダイアログで、Windows XP コンピュータ上での権限を共有するユーザーのユーザー名とパスワード情報を入力します。



システム認証ダイアログ

6 [OK]をクリックします。

7 ボリューム選択ダイアログで、Mac OS X のデスクトップにマウントするボリュームを選択します。

💡 メニューに表示される名前は、30 ページの「リモート・システムへマウントするためにメディア・ストレージを共有する」で作成される共有名で、実際のボリューム名とは異なる場合があります。



[ボリュームを選択]ダイアログ

8 [OK]をクリックします。

9 Mac OS X のデスクトップにボリュームがマウントされます。

Windows Vista のメディア・ストレージをクロスマウントする

別のコンピュータの共有ボリュームを Windows Vista コンピュータにマウントすることができます。

共有ボリュームを Windows Vista にマウントするには：

1 Windows Vista で、[スタート]をクリックし、[コンピュータ]をクリックします。

2 ツールバーで、[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。

3 [ネットワークドライブの割り当て]ウィンドウで、Vista がネットワーク・ドライブの認識に使うドライブの文字を選択します。

4 [参照]をクリックし、マウントしたい共有ボリュームを選択してから [OK] をクリックします。

5 [ネットワークドライブの割り当て]ダイアログで、[完了]をクリックします。

6 [ログオン]ウィンドウで、他のコンピュータにある有効なアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

7 [OK]をクリックします。

8 Windows Explorer に、Windows Vista コンピュータにマウントしたボリュームのルート・フォルダが表示されます。これで、Windows Vista コンピュータが共有ボリュームの読み込みおよび書き込みができるようになりました。

Mac OS X または Windows メディア・ストレージを Windows XP にクロスマウントする

別のコンピュータの共有ボリュームを Windows XP コンピュータにマウントすることができます。

共有ボリュームを Windows XP にマウントするには：

1 Windows XP で、[マイコンピュータ]を右クリックし、[ネットワークドライブの割り当て]を選択します。

2 [ドライブ]ポップアップメニューで、他のコンピュータのボリュームに割り当てたいドライブ名を選択します。（ファイルを正確に再リンクするために、Windows XP システムにマウントされているすべてのボリュームは、何らかの文字に割り当てられている必要があります。たとえば、*e:\shared volume\media files* などです。）

- ・ フォルダ・ポップアップメニューで、*\\IP address\Share* とタイプ入力します。*IP address* には、Mac OS X コンピュータのネットワーク・アドレス（Mac OS X システム環境設定に表示）を入力し、*Share* は、SharePoints 内の共有セット名を入力します。たとえば： *\\152.164.34.23\Video Drive*

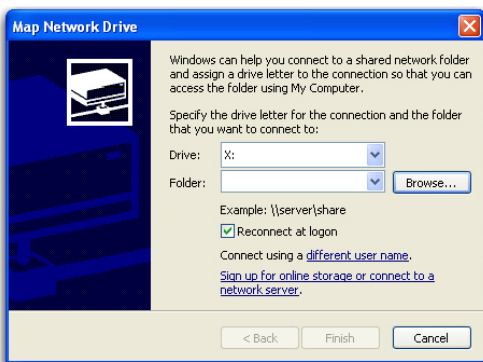
または

- ・ [参照]をクリックし、マウントしたい共有ボリュームを選択してから [OK] をクリックします。

4 [ネットワークドライブの割り当て]ダイアログで、[完了]をクリックします。

5 [ログオン]ウィンドウで、他のコンピュータにある有効なアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

6 [OK] をクリックします。



[ネットワークドライブの割り当て]ダイアログ

3 以下のいずれかを行います。

Windows Explorer に、Windows XP コンピュータにマウントしたボリュームのルート・フォルダが表示されます。これで、Windows XP コンピュータが共有ボリュームに読み込みおよび書き込みができるようになりました。

 デスクトップ上に共有ボリューム・ストレージへのショートカットを作成するには、共有ボリュームを右クリックし、[ショートカットを作成]を選択します。このことで、再起動後も簡単に共有ボリュームを再マウントすることができます。

 再起動のたびに IP アドレスを入力しなければならないようなら、DHCP をオフにしてみてください。

 Windows システム上へ Mac OS X のボリュームをマップすると、Mac システムが [Mac000a958ce06c] などの属名で表示される場合があります。この場合は、[システム環境設定]>[共有]>[ファイル共有]で Macintosh のコンピュータ名を変更し、Mac を再起動してみてください。Windows システムに Macintosh が表示されない場合は、いずれかのシステムまたは両方のシステムを再起動してみてください。

再生するシーケンスをビデオ・サテライト・システムで開く

ビデオ・シーケンスをビデオ・サテライト・システムで再生するには、まずビデオ・ファイルが Media Composer システムに接続されているビデオ・ストレージに置かれており、オーディオ・ファイルが Pro Tools システムに接続されているオーディオ・ストレージに置かれていることを確認します。選択するワークフローは、2つの要素により異なります。

- ・ AAF シーケンスではなくネイティブの Avid シーケンスを開く場合
- ・ 開こうとしているシーケンスがダイレクト再生に適したボリュームに存在する場合

Avid シーケンスを開くには、以下のいずれかのセクションをお読みください。

- ・ 38 ページの「ダイレクト再生に対応しているボリュームから Avid シーケンスを開く」。
- ・ 42 ページの「再生に対応していないボリュームから Avid シーケンスを開く」。

AAF シーケンスを開くには、47 ページの「再生する AAF シーケンスをビデオ・サテライト・システムで開く」をお読みください。

Avid シーケンスまたは AAF シーケンスを受信する

シーケンスを開く手順は、受信するシーケンスが以下のいずれであるかにより異なります。

- ・ Avid シーケンス（Media Composer などの Avid 編集アプリケーションで作成されたシーケンス）を含む Avid ビン
- ・ Pro Tools、Media Composer、その他のアプリケーションへインポートする目的で Avid アプリケーションからエクスポートされた AAF シーケンス

ダイレクト再生に対応している ボリュームから Avid シーケンス を開く

このセクションでは、Media Composer での再生に適したボリューム（ローカル・ビデオ・ストレージ、Unity MediaNetwork、Unity ISIS など）に現在保存されているシーケンスを開く方法について説明します。

AAF シーケンスのインポートに関して、詳しくは 47 ページの「再生する AAF シーケンスをビデオ・サテライト・システムで開く」をお読みください。

Pro Tools が Unity から再生していない状態で、Avid シーケンスをローカル・ストレージまたは Unity に開く

このセクションでは、以下の設定の場合にシーケンスを開く方法について説明します。

- Media Composer が、ビデオ・ストレージ・ボリュームまたは Avid Unity システムからのシーケンスを開く。
- Pro Tools が Unity システムに接続されていない。

このワークフローは、以下の手順で行います。

- 1** ローカル・ストレージまたは Unity ワークスペースから直接、シーケンスを Media Composer に開きます。
- 2** Media Composer から AAF エクスポートを作成し、オーディオをオーディオ・ストレージへコピーします。
- 3** AAF シーケンスを Pro Tools へインポートします。

Unity から再生している Pro Tools を 使って Avid シーケンスを開く

(Windows のみ)

このセクションでは、以下の設定の場合にシーケンスを開く方法について説明します。

- Media Composer が Unity システムからのシーケンスを開く。
- Pro Tools が Unity システムから直接オーディオを再生する。

このワークフローは、以下の手順で行います。

- 1** Unity ワークスペースから直接、シーケンスを Media Composer に開きます。
- 2** Media Composer から AAF エクスポートを作成し、オーディオを専用の Unity オーディオ・ストレージへ統合します。
- 3** AAF シーケンスを Pro Tools に開き、Unity オーディオ・ワークスペース上のオーディオへリンクします。

Unity から再生している Pro Tools を使って Avid シーケンスを開いて再生するには：

- 1** Media Composer を起動し、シーケンスを含むプロジェクトを開きます。
- 2** 操作しているシーケンスを含むビンを開きます。
- 3** シーケンスをレコード・モニターヘッドラッグし、タイムラインへ置きます。
- 4** シーケンスを選択して右クリックし、[Export] を選択します。

5 [Export As] ダイアログで、[Options] を選択します。



[Export As] ダイアログ

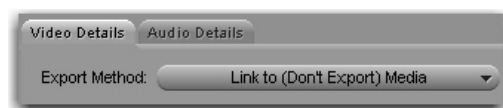
6 エクスポート設定ダイアログで、以下の設定を行います。

- ・ [Export As] ポップアップメニューが AAF に設定されていることを確認します。

および

- ・ [Include All Video Tracks] および [Include All Audio Tracks in Sequence] のオプションをオンにします。

7 [Video Details] タブをクリックし、[Export Method] ポップアップメニューから [Link to (Don't Export) Media] を選択します。



エクスポート設定ダイアログ ([Video Details] タブ)

8 [Audio Details] タブをクリックし、[Export Method] ポップアップメニューから [Consolidate Media] を選択します。



エクスポート設定ダイアログ ([Audio Details] タブ)

9 [Save] をクリックします。

💡 [Save As] をクリックし、作成したエクスポート設定を保存することもできます。詳しくは、47 ページの「エクスポート設定を保存、呼び出し、使用して AAF シーケンスをエクスポートする」をお読みください。

10 [Export As] ダイアログで、専用の Unity オーディオ・ワークスペース上の任意のフォルダを選択します。

11 [Save] をクリックします。

12 Pro Tools で、[ファイル] (File) > [セッションを開く] (Open Session) を選択し、Unity オーディオ・ワークスペースで AAF を選択します。

13 [セッションデータをインポート] (Import Session Data) ダイアログで、以下の設定を行います。

- ・ [オーディオメディアオプション] (Audio Media Options) で、[ソースメディアヘルリンク] (Link to Source Media) を選択します。

および

- ・ [ビデオメディアオプション] (Video Media Options) で、[ソースメディアヘルリンク] (Link to Source Media) を選択します。

14 [セッションデータをインポート]ダイアログの [ソーストラック] (Source Tracks) セクションで、以下のすべての設定を行います。

- ・ ビデオ・サテライトから新規ビデオ・トラックへエクスポートされたメタデータ (カットおよびクリップ名) をインポートするには、[新規サテライトトラック] (New Satellite Track) を選択します。(このビデオ自体はインポートされません。)
- ・ ビデオを Pro Tools の新規ビデオ・トラックへインポートするには、[新規ビデオトラック] (New Video Track) を選択します (SD ビデオのみ、Avid ビデオ機器が必要)。

- ・ インポートする各オーディオ・トラックに対し、[新規トラック] (New Track) を選択します。

Source Tracks	Destination
V1 (video)	New Satellite Track
A1 (Mono audio)	New Track
A2 (Mono audio)	New Track

ソース・トラック・ブラウザ

15 他のオプションの選択が完了したら、[OK] をクリックします。

AAF シーケンスが Pro Tools に開きます。

Unity に接続しているがストリーミングしていない Pro Tools を使って Avid シーケンスを開く

このセクションでは、以下の設定の場合にシーケンスを開く方法について説明します。

- ・ Media Composer が Unity システムからのシーケンスを開く。
- ・ Pro Tools は Unity システムに接続されているが、Unity から直接メディアを再生することができない。

このワークフローは、以下の手順で行います。

- 1** Unity ワークスペースから直接、シーケンスを Media Composer に開きます。
- 2** AAF を Media Composer から作成し、既存のオーディオ・ファイルへリンクします。
- 3** AAF シーケンスを Pro Tools に開き、オーディオ・ファイルをローカル・オーディオ・ストレージへコピーします。

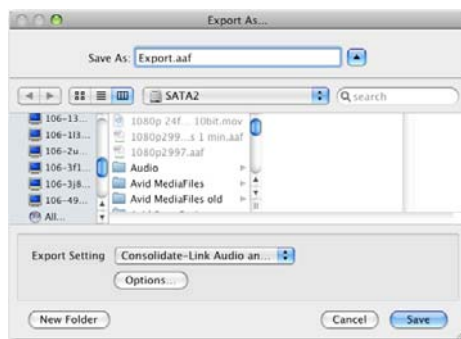
オーディオを共有ワークスペースからコピーして Avid シーケンスを開くには：

- 1** Media Composer を起動し、開きたいビン、および、シーケンスを含むプロジェクトを開きます。
- 2** 操作しているシーケンスを含むビンを開きます。

3 シーケンスをレコード・モニターヘドラッグし、タイムラインへ置きます。

4 シーケンスを選択して右クリックし、[Export] を選択します。

5 [Export As] ダイアログで、[Options] を選択します。



[Export As] ダイアログ

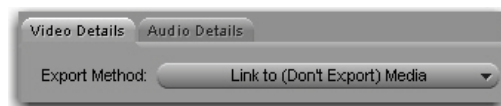
6 エクスポート設定ダイアログで、以下の設定を行います。

- ・ [Export As] ポップアップメニューが AAF に設定されていることを確認します。

および

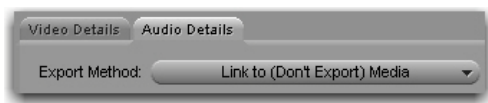
- ・ [Include All Video Tracks] および [Include All Audio Tracks in Sequence] のオプションをオンにします。

7 [Video Details] タブをクリックし、[Export Method] ポップアップメニューから [Link to (Don't Export) Media] を選択します。



エクスポート設定ダイアログ ([Video Details] タブ)

8 [Audio Details] タブをクリックし、[Export Method] ポップアップメニューから [Link to (Don't Export) Media] を選択します。



エクスポート設定ダイアログ ([Audio Details] タブ)

9 [Save] をクリックします。

💡 [Save As] をクリックし、作成したエクスポート設定を保存することもできます。詳しくは、47 ページの「エクスポート設定を保存、呼び出し、使用して AAF シーケンスをエクスポートする」をお読みください。

10 [Export As] ダイアログで、Pro Tools システムへアクセス可能な Unity ワークスペース上のいずれかのフォルダを選択します。

11 [Save] をクリックします。

12 Pro Tools で、[ファイル] (File) > [セッションを開く] (Open Session) を選択し、Unity ワークスペースで AAF シーケンスを選択します。

13 [セッションデータをインポート] (Import Session Data) ダイアログで、以下の設定を行います。

- ・ [オーディオメディアオプション] (Audio Media Options) で、[ソースメディアからコピー] (Copy from Source Media) を選択します。

および

- ・ [ビデオメディアオプション] (Video Media Options) で、[ソースメディアへリンク] (Link to Source Media) を選択するか、[ソースメディアからコピー] (Copy from Source Media) を選択します (SD のビデオ・データをインポートする場合のみ、Avid ビデオ機器が必要)。

14 [セッションデータをインポート] ダイアログの [ソーストラック] (Source Tracks) セクションで、以下のいずれかの設定を行います。

- ・ [ビデオメディアオプション] セクションで [ソースメディアへリンク] を選択した場合は、[新規サテライトトラック] を選択します。これで、ビデオ・サテライトからエクスポートされたメタデータ (カットおよびクリップ名) が新規ビデオ・トラックヘインポートされます。(このビデオ自体はインポートされません。)

または

- ・ [ビデオメディアオプション] セクションで [ソースメディアからコピー] を選択した場合は、[新規ビデオトラック] を選択します。これでビデオが Pro Tools の新規ビデオトラックヘインポートされます。

インポートする各オーディオ・トラックに対し、[新規トラック] (New Track) を選択します。

Source Tracks	Destination
V1 (video)	New Satellite Track
A1 (Mono audio)	New Track
A2 (Mono audio)	New Track

ソース・トラック・ブラウザ

15 他のオプションの選択が完了したら、[OK] をクリックします。

AAF シーケンスが Pro Tools に開きます。オーディオ・ファイルは、バックグラウンドでセッションの [Audio Files] フォルダへコピーされます。

再生に対応していないボリュームから Avid シーケンスを開く

このセクションでは、Media Composer での再生に対応していないボリューム（DVD やイーサネットにマウントされているネットワーク・ボリューム）に保存されているシーケンスを開く方法について説明します。このワークフローでは、別の Avid 編集アプリケーションからビンを受信していることを前提としています。

AAF シーケンスのインポートに関して、詳しくは 47 ページの「再生する AAF シーケンスをビデオ・サテライト・システムで開く」をお読みください。

このワークフローは、以下の手順で行います。

- 1 Avid ビンを任意のプロジェクト・フォルダへコピーします。
- 2 メディアをビデオ・ストレージへコピーします。
- 3 Media Composer で以下のいずれかを行います。
 - ・ ビンを含むプロジェクトを開きます。または
 - ・ 新規プロジェクトを作成し、ビンをプロジェクト内に開きます。
- 4 任意のシーケンスをビン内に開きます。
- 5 Media Composer から AAF シーケンスをエクスポートします。
- 6 Pro Tools で、AAF シーケンスをインポートし、オーディオ・ファイルがオーディオ・ストレージへコピーされていることを確認します。

Avid シーケンスをサテライト・ビデオ・ストレージへコピーする

Avid シーケンスおよびその参照しているビデオを Media Composer のビデオ・ストレージ・ドライブへコピーするには：

- 1 ハードディスク、DVD、ネットワーク・ボリューム上のシーケンスを含むビンを選択します。
- 2 ビンおよびメディアをサテライト・ビデオ・ストレージへ以下のとおりコピーします。
 - ・ すべての OMF ビデオ・ファイル、および、OMF フォーマットの AIFF または WAV ファイルを [OMFI MediaFiles] フォルダへコピーします。

および

- ・ すべての MXF ファイルを [Avid MediaFiles] フォルダへコピーします。
- 3 以下のいずれかを行います。
 - ・ Avid プロジェクト内から、[File]>[Open Bin] を選択し、開くビンを選択します。または
 - ・ シーケンスを含むビンを任意のプロジェクト・フォルダへコピーします（プロジェクト・フォルダのロケーションは、プロジェクトをどこへ保存しているか、および、プロジェクトが共有されているかいないかにより異なります）。



OMF ビデオ・ファイルには [.omf] のファイル拡張子が付いており、通常 [OMFI MediaFiles] フォルダに保存されます。OMF フォーマットのオーディオ・ファイルには [.wav] または [.aif] のファイル拡張子が付いており、同じく [OMFI MediaFiles] フォルダに保存されます。MXF ファイルには [.mxf] のファイル拡張子が付いており、通常 [Avid MediaFiles] フォルダに保存されます。

オーディオ・ストレージがサテライト上にマウントされている状態で Avid シーケンスを AAF シーケンスとしてエクスポートする

このセクションでは、オーディオ・ストレージがサテライト上にマウントされている場合に Pro Tools の AAF シーケンスをエクスポートする方法について説明します。

オーディオ・ストレージがサテライト上にマウントされている状態で Pro Tools に対する AAF シーケンスをエクスポートするには：

1 Pro Tools システムで、以下のいずれかを行います。

- ・ 任意の名前を付けたセッションを作成し、このセッションのフレームレートを AAF シーケンスのフレームレートと一致させます。

または

- ・ AAF シーケンスをインポートする場所で、既存のセッションを開きます。

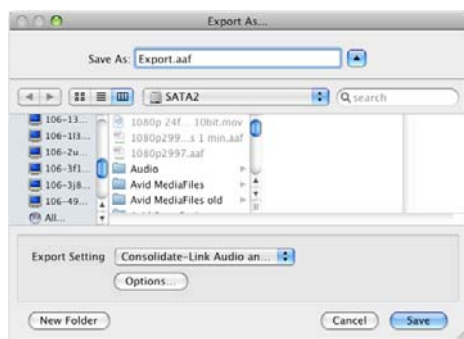
2 サテライト・システムで、エクスポートするシーケンスを含むプロジェクトを開きます。

3 エクスポートするシーケンスを含むビンを開きます。

4 シーケンスをレコード・モニターヘッドラッグし、タイムラインへ置きます。

5 シーケンスを選択して右クリックし、[Export] を選択します。

6 [Export As] ダイアログで、[Options] を選択します。



[Export As] ダイアログ

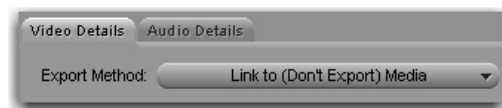
7 エクスポート設定ダイアログで、以下の設定を行います。

- ・ [Export As] ポップアップメニューが AAF に設定されていることを確認します。

および

- ・ [Include All Video Tracks in Sequence] および [Include All Audio Tracks in Sequence] オプションをオンにします。

8 [Video Details] タブをクリックし、[Export Method] ポップアップメニューから [Link to (Don't Export) Media] を選択します。

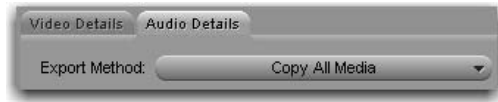


エクスポート設定ダイアログ ([Video Details] タブ)

9 [Audio Details] タブをクリックし、以下のいずれかのオプションを [Export Method] ポップアップメニューから選択します。

[Consolidate Media] (メディアを統合) このオプションでは、シーケンス内で実際に使用されているオーディオ・ファイル部分のみがコピーされるため、処理速度が比較的速く、使用されるストレージのサイズも比較的小さくなります。Pro Tools でファイルを拡張する必要がある場合、ファイルの両側に「ハンドル」を追加するオプションを選択することができます。

[Copy All Media] (すべてのメディアをコピー) このオプションでは、処理速度が比較的遅く、使用されるストレージのサイズも比較的大きくなりますが、Pro Tools で完全なファイルにアクセスすることができます。このエクスポートが、統合でなくコピーした既存のシーケンスに対する更新である場合、AAF を同じセッション・フォルダへエクスポートしているのであれば、新規ファイルのみがコピーされます。



エクスポート設定ダイアログ ([Audio Details] タブ)

10 [Media Destination] セクションで、以下の設定を行います。

- [Audio] ポップアップメニューから [Folder] を選択します。

および

- [Use Same Folder As AAF File] オプションを選択します。



エクスポート設定ダイアログ ([Media Destination] セクション)

11 [Save] をクリックします。



[Save As] をクリックし、作成したエクスポート設定を保存することもできます。詳しくは、47 ページの「エクスポート設定を保存、呼び出し、使用して AAF シーケンスをエクスポートする」をお読みください。

12 [Export As] ダイアログで、Pro Tools オーディオ・ストレージ上の任意のセッション・フォルダを選択します。

13 [Save] をクリックします。

これにより、[OMFI MediaFiles] フォルダ (OMF メディアの場合) または [Avid MediaFiles] フォルダ (MXF メディアの場合) がオーディオ・ストレージ上の Pro Tools セッション・フォルダ内に作成されます。AAF シーケンスもセッション・フォルダ内に作成されます。AAF シーケンスを正しく再リンクするには、AAF シーケンスがメディア・フォルダと同じフォルダ内にある必要があります。

14 Pro Tools で、[ファイル] (File) > [インポート] (Import) > [セッションデータ] (Session Data) を選択します。

15 Media Composer からエクスポートされた AAF シーケンスを選択し、[開く] (Open) をクリックします。

16 [セッションデータをインポート] (Import Session Data) ダイアログで、以下の設定を行います。

- [オーディオメディアオプション] (Audio Media Options) で、[ソースメディアへリンク (可能な部分のみ)] (Link to Source Media (Where Possible)) を選択します。

および

- [ビデオメディアオプション] (Video Media Options) で、[ソースメディアへリンク] (Link to Source Media) を選択します。

17 [セッションデータをインポート] ダイアログの [ソーストラック] (Source Tracks) セクションで、以下の設定を行います。

- ビデオ・サテライトから新規ビデオ・トラックへエクスポートされたメタデータ (カットおよびクリップ名) をインポートするには、[新規サテライトトラック] (New Satellite Track) を選択します。(このビデオ自体はインポートされません。)

- ・ビデオを Pro Tools の新規ビデオ・トラックへインポートするには、[新規ビデオトラック] (New Video Track) を選択します (SD ビデオのみ、Avid ビデオ機器が必要)。
- ・インポートする各オーディオ・トラックに対し、[新規トラック] (New Track) を選択します。

Source Tracks	Destination
V1 (video)	New Satellite Track
A1 (Mono audio)	New Track
A2 (Mono audio)	New Track

ソース・トラック・ブラウザ

18 他のオプションの選択が完了したら、[OK] をクリックします。

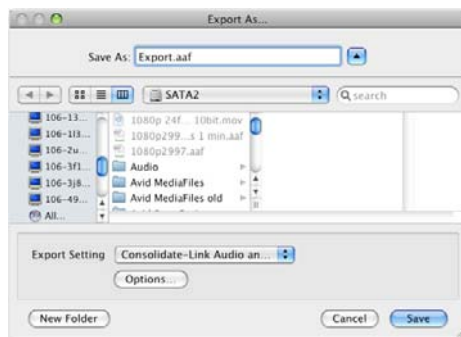
AAF が Pro Tools に開きます。

ビデオ・ストレージが Pro Tools システム上にマウントされている状態で Avid シーケンスを AAF シーケンスとしてエクスポートする

このセクションでは、ビデオ・ストレージが Pro Tools システム上にマウントされている場合に Pro Tools に対して AAF シーケンスをエクスポートする方法について説明します。

ビデオ・ストレージが Pro Tools システム上にマウントされている状態で Pro Tools に対する AAF シーケンスをエクスポートするには：

- 1 サテライト・システムで、エクスポートするシーケンスを含むプロジェクトを開きます。
- 2 エクスポートするシーケンスを含むビンを開きます。
- 3 シーケンスをレコード・モニターヘドラッグし、タイムラインへ置きます。
- 4 シーケンスを選択して右クリックし、[Export] を選択します。
- 5 [Export As] ダイアログで、[Options] を選択します。

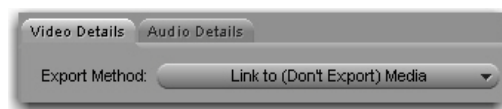


[Export As] ダイアログ

6 エクスポート設定ダイアログで、以下の設定を行います。

- ・[Export As] ポップアップメニューが AAF に設定されていることを確認します。
- ・[Include All Video Tracks in Sequence] オプションをオンにします。
- ・[Include All Audio Tracks in Sequence] オプションをオンにします。

7 [Video Details] タブをクリックし、[Export Method] ポップアップメニューから [Link to (Don't Export) Media] を選択します。



エクスポート設定ダイアログ ([Video Details] タブ)

8 [Audio Details] タブをクリックし、[Export Method] ポップアップメニューから [Link to (Don't Export) Media] を選択します。



エクスポート設定ダイアログ ([Audio Details] タブ)

9 [Save] をクリックします。

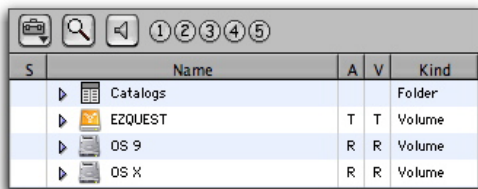
10 [Export As] ダイアログで、AAF シーケンスをビデオ・ストレージ上の適切なロケーションへ保存します。

💡 ビデオ・ストレージのルート・フォルダに、ファイル交換用の「Drop Box」フォルダを作成することをお勧めします。AAF シーケンスをメディア・フォルダのいずれかに保存しないでください。

11 [Save] をクリックします。

Media Composer により、AAF シーケンス・ファイルが対象フォルダに保存されます。

12 Pro Tools のコンピュータで、[ウィンドウ] (Windows) > [ワークスペース] (Workspace) を選択します。



Pro Tools のワークスペース・ブラウザ

13 以下のいずれかを行います。

- Pro Tools 内にセッションが開かれていない場合、ワークスペース・ブラウザ内の AAF シーケンスへと移動し、シーケンスをダブルクリックして開きます。

または

- AAF のインポート先となる新規セッションを作成する場合、その AAF シーケンスにより参照される元のファイルのプロパティと一致するファイル・フォーマット、サンプルレート、ビット数を選択します。セッションに名前を付け、専用のオーディオ・ストレージに保存します。

14 [セッションデータをインポート] (Import Session Data) ダイアログで、以下の設定を行います。

- [オーディオメディアオプション] (Audio Media Options) で、[ソースメディアからコピー] (Copy from Source Media) を選択します。

および

- [ビデオメディアオプション] (Video Media Options) で、[ソースメディアへリンク] (Link to Source Media) を選択するか (メタデータのみインポートするとき)、[ソースメディアからコピー] (Copy from Source Media) を選択します (ビデオ・データをインポートするとき、SD のみ、Avid ビデオ機器が必要)。

15 [セッションデータをインポート]ダイアログの [ソーストラック] (Source Tracks) セクションで、以下の設定を行います。

- [ビデオメディアオプション] (Video Media Options) セクションで [ソースメディアへリンク] (Link to Source Media) を選択した場合は、[新規サテライトトラック] (New Satellite Track) を選択します。これでビデオ・サテライトからエクスポートされたメタデータ (カットおよびクリップ名) が新規サテライトトラックへインポートされます。(このビデオ自体はインポートされません。)

または

- [ビデオメディアオプション] (Video Media Options) セクションで [ソースメディアからコピー] (Copy from Source Media) を選択した場合は、[新規ビデオトラック] (New Video Track) を選択します。これで Pro Tools の新規ビデオ・トラックへビデオがインポートされます。

インポートする各オーディオ・トラックに対し、[新規トラック] (New Track) を選択します。

Source Tracks	Destination
V1 (video)	New Satellite Track
A1 (Mono audio)	New Track
A2 (Mono audio)	New Track

ソース・トラック・ブラウザ

16 他のオプションの選択が完了したら、[OK] をクリックします。

AAF が Pro Tools に開きます。

エクスポート設定を保存、呼び出し、使用して AAF シーケンスをエクスポートする

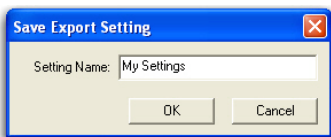
Media Composer のエクスポート設定を保存するには：

- 1 Media Composer で、任意のビンのシーケンスを右クリックし、[Export] をクリックします。
- 2 [Export As] ダイアログで、[Options] を選択します。



[Export As] ダイアログ

- 3 エクスポート設定ダイアログで、任意のエクスポート・オプションを選択します。
- 4 [Save As] をクリックします。
- 5 [Save Export Setting] ダイアログで設定の名前を入力し、[OK] をクリックします。



[Save Export Settings] ダイアログ

Media Composer のエクスポート設定を呼び出すには：

- 1 Media Composer で、任意のビンのシーケンスを右クリックし、[Export] をクリックします。
- 2 [Export As] ダイアログで、カスタマイズしたエクスポート設定をエクスポート設定ポップアップメニューから選択します。

再生する AAF シーケンスをビデオ・サテライト・システムで開く

ダイレクト再生に対応しているボリュームまたは対応していないボリュームから、再生する AAF シーケンスをビデオ・サテライト・システム上に開くことができます。

ダイレクト再生に対応しているボリュームから Media Composer へ AAF シーケンスをインポートする

ダイレクト再生に対応しているボリュームには、ローカル・ビデオ・ストレージや Unity があります。

ダイレクト再生に対応しているボリュームから Media Composer へ AAF シーケンスをインポートするには：

- 1 受信した AAF シーケンスにリンクされているメディアが含まれる場合、以下のとおりメディアをコピーします。
 - ・ OMF ビデオ・ファイルおよび OMF フォーマットの WAV または AIFF ファイルすべてを [OMFI MediaFiles] フォルダへコピーします。
 - および
 - ・ すべての MXF ファイルを [Avid MediaFiles] フォルダへコピーします。

- 2 以下のいずれかの方法でメディアのデータベースを更新します。

- ・ Media Composer を起動します。

または

- ・ [File]>[Refresh Media Directories] を選択します。

3 Media Composer で、AAF シーケンスをインポートするピンを開きます。（ピンがすでに開いている場合、ピンをクリックしてウィンドウを操作対象にします。）

4 [File]>[Import] を選択します。

5 ダイレクト再生に対応しているボリューム上の AAF シーケンスへ移動します。

以下のいずれかが生じます。

- ・ 外部（リンクされている）メディアを参照する AAF シーケンスをインポートした場合、シーケンスがピンに表示されます。
- ・ メディアを含む AAF シーケンスをインポートした場合、含まれるメディアが専用のメディア・ファイル・フォルダへ Media Composer により自動的にコピーされます。

6 シーケンスがピンに表示されたら、シーケンスをレコード・モニターヘドラッグしてタイムライン上に置きます。

ダイレクト再生に対応していないボリュームから Media Composer へ AAF シーケンスをインポートする

このセクションでは、Media Composer での再生に対応していないボリューム（DVD やイーサネットにマウントされているネットワーク・ボリューム）に保存されている AAF シーケンスをインポートする方法について説明します。

Media Composer のリンクするメディアを含む AAF シーケンスをインポートする

シーケンス・ファイル内に含まれていないメディアへリンクする AAF シーケンスを開く前に、サテライト・ビデオ・ストレージへメディアを手動でコピーする必要があります。

リンクするメディアを含む AAF シーケンスをサテライト・ビデオ・ストレージへコピーするには：

1 すべてのメディア・ファイルをサテライト・ビデオ・ストレージへ以下のとおりコピーします。

- ・ OMF ビデオ・ファイルおよび OMF フォーマットの WAV または AIFF ファイルすべてを [OMFI MediaFiles] フォルダへコピーします。

および

- ・ すべての MXF ファイルを [Avid MediaFiles] フォルダへコピーします。

2 以下のいずれかの方法でメディアのデータベースを更新します。

- ・ Media Composer を起動します。

または

- ・ [File]>[Refresh Media Directories] を選択します。

3 [File]>[Import] を選択し、ビデオ・ストレージ上の AAF シーケンスへ移動します。

Media Composer に組み込まれたメディアを含む AAF シーケンスをインポートする

メディアが組み込まれた AAF シーケンスをダイレクト再生に対応していないボリュームからインポートするには：

1 Media Composer で、AAF シーケンスをインポートするピンを開きます。（ピンがすでに開いている場合、ピンをクリックしてウィンドウを操作対象にします。）

2 [File]>[Import] を選択します。

3 AAF シーケンスへ移動します。

AAF からのメディアは専用のメディア・ファイル・フォルダへコピーされ、シーケンスが Media Composer で再生可能になります。

4 シーケンスがビンに表示されたら、シーケンスをレコード・モニターヘドラッグしてタイムライン上に置きます。

ダイレクト再生に対応しているボリュームから Pro Tools へ AAF シーケンスをインポートする

このセクションでは、ダイレクト再生に適したボリューム（ローカル・オーディオ・ストレージや Unity など）から AAF シーケンスをインポートするのに Pro Tools を使用方法について説明します。

ダイレクト再生に対応しているボリュームから Pro Tools へ AAF シーケンスをインポートするには：

- 1 Pro Tools で、[ファイル] (File) > [セッションを開く] (Open Session) を選択します。
- 2 [セッションを開く] ダイアログで、インポートする AAF シーケンスを選択します。
- 3 [開く] (Open) をクリックします。
- 4 [セッションデータをインポート] ダイアログの [ソーストラック] (Source Tracks) セクションで、以下の設定を行います。
 - ・ビデオ・サテライトから新規ビデオ・トラックへエクスポートされたメタデータ（カットおよびクリップ名）をインポートするには、[新規サテライトトラック] (New Satellite Track) を選択します。（このビデオ自体はインポートされません。）
 - ・ビデオを Pro Tools の新規ビデオ・トラックへインポートするには、[新規ビデオトラック] (New Video Track) を選択します（SD ビデオのみ、Avid ビデオ機器が必要）。
 - ・インポートする各オーディオ・トラックに対し、[新規トラック] (New Track) を選択します。

Source Tracks	Destination
V1 (video)	New Satellite Track
A1 (Mono audio)	New Track
A2 (Mono audio)	New Track

ソース・トラック・ブラウザ

AAF シーケンスを Pro Tools で再生する準備ができました。

ダイレクト再生に対応していないボリュームから Pro Tools へ AAF シーケンスをインポートする

このセクションでは、ダイレクト再生に適していないボリューム（DVD やイーサネットにマウントされているネットワーク・ボリューム）に保存されている AAF シーケンスをインポートするのに Pro Tools を使用方法について説明します。

ダイレクト再生に対応していないボリュームから Pro Tools へ AAF シーケンスをインポートするには：

- 1 Pro Tools で、[ファイル] (File) > [セッションを開く] (Open Session) を選択します。
- 2 [セッションを開く] ダイアログで、インポートする AAF シーケンスを選択します。
- 3 [開く] (Open) をクリックします。
- 4 [セッションデータをインポート] ダイアログの [ソーストラック] (Source Tracks) セクションで、以下の設定を行います。
 - ・ビデオ・サテライトから新規ビデオ・トラックへエクスポートされたメタデータ（カットおよびクリップ名）をインポートするには、[新規サテライトトラック] (New Satellite Track) を選択します。（このビデオ自体はインポートされません。）
 - ・ビデオを Pro Tools の新規ビデオ・トラックへインポートするには、[新規ビデオトラック] (New Video Track) を選択します（SD ビデオのみ、Avid ビデオ機器が必要）。

- ・ インポートする各オーディオ・トラックに対し、[新規トラック] (New Track) を選択します。

Source Tracks	Destination
V1 (video)	New Satellite Track
A1 (Mono audio)	New Track
A2 (Mono audio)	New Track

ソース・トラック・ブラウザ

- 5 再生に適したボリュームを選択し、[保存] (Save) をクリックします。

Pro Tools により、セッションが保存されているオーディオ用ドライブへオーディオ・ファイルがコピーされます。

AAF シーケンスを Pro Tools で再生する準備ができました。

Pro Tools 上にマウントできないボリュームから AAF シーケンスをインポートする

このセクションでは、Pro Tools コンピュータ上にマウントできないボリュームから Pro Tools へ AAF シーケンスをインポートする方法について説明します。

Pro Tools 上にマウントできないボリュームから Pro Tools へ AAF シーケンスをインポートするには：

- 1 29 ページの「リモート・システムのメディア・ストレージをクロスマウントする」での説明に従って、Pro Tools オーディオ・ストレージをビデオ・サテライト・コンピュータへマウントします。
- 2 43 ページの「オーディオ・ストレージがサテライト上にマウントされている状態で Avid シーケンスを AAF シーケンスとしてエクスポートする」での説明に従って、Composer から Pro Tools オーディオ・ストレージへ AAF シーケンスをエクスポートします。

Avid Interplay 環境でビデオ・サテライトを使用する

Avid Interplay のシーケンス交換は完全に AAF シーケンスに基づいているため、Avid Interplay に接続しているビデオ・サテライト・システムを使って AAF シーケンスを開いて交換するには、「DigiTranslator ガイド」での説明に従って、通常の AAF シーケンスを交換する場合と同様の手順を踏む必要があります。

Interplay への Pro Tools の対応について、詳しくは「*Pro Tools Avid Interplay ガイド*」をご参照ください。

Pro Tools とビデオ・サテライトを接続する

Pro Tools とビデオ・サテライトをトランスポートに同期させるには、これらが ??? している必要があります。リンクを行う前に、Pro Tools とビデオ・サテライト間の基本的な通信チャンネルを確立する必要があります。Pro Tools とビデオ・サテライト・システム間でこの通信が確立されると、*接続*されます。

Pro Tools とビデオ・サテライト・システムを接続するには、これらが (24 ページの「ビデオ・サテライト・システムでイーサネット接続を行う」での説明に従って) イーサネットを使って接続されている必要があります。

さらに、Media Composer システム上で Video Satellite オプションが有効になっていること、25 ページの「Media Composer を Pro Tools へ接続する」の説明に従ってシステムが接続されている必要があります。

▲ *他のアプリケーションと同時に Media Composer を動作させると、AV 同期の問題、フレームの欠落、オーディオのとぎれなどの思いがけない動作が生じることがあります。Media Composer 3.x の動作中は、他のアプリケーションを起動しないことをお勧めします。これは、サテライト・モードであるかどうかに関わらず生じる可能性があります。*

Pro Tools とビデオ・サテライトの接続に対する注意

Pro Tools とビデオ・サテライト間の接続には、以下の注意が適用されます。

- ・ビデオ・サテライトに接続している Pro Tools アプリケーションを終了するとビデオ・サテライトがリリースされ、他の Pro Tools システムに接続することができます。
- ・サテライトが接続している間に Pro Tools を終了すると、Pro Tools は再起動時に同じサテライトに再接続を試みます。
- ・Video Satellite へリンクしているときは、Pro Tools は MTC (MIDI Time Code) に追従しません。

サテライト接続のトラブルシューティング

サテライトが [アドミニストレータ] ポップアップメニューに表示されない場合、以下を確認します。

- 1** Media Composer が完全に起動していることを確認します。
- 2** Media Composer のプロジェクト・ウィンドウで [Settings]>[Video Satellite] を選択します。[Video Satellite Mode] がオンになっていることを確認します。
- 3** Pro Tools の [ペリフェラル] (Peripherals) ダイアログの [Satellite] (サテライト) ページで、インターフェース・メニューから異なるイーサネット・ポートを選択します。多くのコンピュータには、1 つ以上のイーサネット・ポートまたは「インターフェース」が搭載されています。ここで選択されたインターフェースは、サテライトと同じネットワークに接続されている必要があります。
- 4** Media Composer のプロジェクト・ウィンドウで、[Settings] タブをクリックしてから [Video Satellite Settings] をダブルクリックし、TCP/UDP ポートが、Pro Tools の [ペリフェラル] ダイアログ内のサテライトのウィンドウに表示されている TCP/UDP ポートと一致していることを確認します。(どちらのポートも 28282 にデフォルト設定されています。)
- 5** TCP/UDP ポート設定が同じであれば、表示されているポートがネットワーク上でブロックされていないことをネットワーク管理者に確認してください。
- 6** すべてのイーサネット・ケーブルが完全に差し込まれており、機能していることを確認します。ほとんどの場合、イーサネット・ポートの LED に状態が表示されます。
- 7** ビデオ・サテライト再生は、以下の状況では機能しません。
 - ・ Pro Tools または Media Composer に特定のダイアログが開いている。

- Media Composer が操作対象のアプリケーションでない。
- Pro Tools のセッションが開いていない、または Media Composer のシーケンスが開いていない。

ビデオ・サテライト・システム内の Media Composer と Pro Tools 設定を一致させる

Pro Tools と Media Composer 間の再生を正確に同期させるには、以下のパラメータが一致している必要があります。

- Media Composer の [Project Type] と、Pro Tools の [タイムコードレート]、[クロックリファレンス]、[ビデオフォーマット]
- Pro Tools のオーディオ・ブルアップ設定と Media Composer の [Edit Play Rate]
- タイムコード形式 (ドロップ・フレームまたはノンドロップ・フレーム)

Pro Tools が、ビデオ・サテライトとしての Media Composer と同期して再生するために、これらの設定すべてが相互依存関係にあります。これらの設定のいずれかに不一致があれば、Pro Tools ディスプレイにエラー・メッセージが表示されます。

Media Composer の [Starting TC] タイムコード設定と Pro Tools のセッション・スタートは完全に一致する必要はありませんが、できるだけ近い方がよいでしょう。

24p および 23.976 プロジェクトを操作している場合、Media Composer は、29.97 fps タイムコードへマッピングされているフレームを表示するようデフォルト設定されています。24p または 23.976 プロジェクトで作業を行っている場合に Pro Tools

と Media Composer のタイムコード表示を同期させるには、レコード・モニター上のタイムコード・ディスプレイをクリックし、[Sequence]>[Timecode]>[24]>[Mas] を選択します。

⚠ ポスト・プロダクション段階での同期の問題を防ぐためには、Media Composer 内に開かれているシーケンスの設定に一致するよう、Pro Tools 内の設定を変更することを強くお勧めします。

Media Composer の [Project Type] と、Pro Tools の [タイムコードレート]、[クロックリファレンス]、[ビデオフォーマット] を一致させる

このセクションでは、Media Composer の [Project Type] と Pro Tools の [タイムコードレート]、[クロックリファレンス]、[ビデオフォーマット] を一致させる方法について説明します (54 ページの表 4 に記述)。

ビデオ・サテライト・システムが正しい設定を使用して再生およびキャプチャーを行うようにするには：

- 1 Media Composer で、プロジェクト・ウィンドウの [Format] タブをクリックします。
- 2 プロジェクト・タイプ・ポップアップメニューから任意の設定を選択します。

⚠ ほとんどの場合、Media Composer のプロジェクト・タイプを変更することはお勧めできません。また、変更できない場合がほとんどです。HD プロジェクトから SD ヘダウンコンバートを作成するのでない限り、Pro Tools のタイムコード・レートを変更してください。詳しくは「Pro Tools リファレンスガイド」をお読みください。

 プロジェクト・タイプ設定は、Media Composer で新規プロジェクトを作成する際にも設定されます。

3 Pro Tools で、[設定] (Setup) > [セッション] (Session) を選択します。

4 タイムコード・レート・ポップアップメニューから、Media Composer のプロジェクト・タイプ設定に対応するタイムコード設定を選択します。

5 対応クロック・ソースが正しく接続されていることを確認してください。

6 クロック・リファレンス・ポップアップメニューから接続されているクロック・リファレンスを選択します。

7 対応するビデオ形式をビデオ・リファレンス形式ポップアップメニューから選択します。

⚠️ ほとんどの HD フレーム・レートでは、ビデオ・リファレンス形式は変更できません。

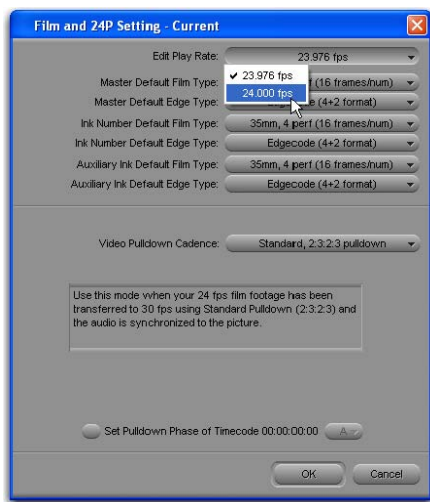
オーディオ・プルアップと編集再生レート

デフォルトでは、Media Composer はシーケンスをプロジェクト・タイプ名で特定されたフレームレートで再生します。たとえば、[25i PAL] プロジェクトは 25 fps で再生されます。例外は [30i NTSC] で、実際には 29.97 fps で再生されます。

23.976、24p NTSC、24p PAL、25p PAL プロジェクトで作業する際、再生レート（編集再生レートとして知られる）を他のプロパティに影響することなく変更し、再生速度を少し上げ下げすることができます。これは、Pro Tools のオーディオのプルアップ / プルダウン設定に対応するビデオ設定です。

編集再生レートを変更するには：

1 プロジェクト・ウィンドウの [Settings] タブで、[Film] および [24P] 設定を開きます。



[Film] および [24P] 設定ダイアログ

2 54 ページの表 4 に従って、設定に一致する編集再生レートを選択します。

💡 24p のプロジェクト (PAL と NTSC) は、プロジェクトのレートとは一致しないデフォルトの編集再生レートを使います。24p PAL は 25 fps へ、24p NTSC は 23.976 fps へデフォルト設定されます。

対応表

以下の表は、Avid プロジェクト形式、編集再生レート、Pro Tools のタイムコード・レート、オーディオレート・プルアップ / プルダウン、クロック・リファレンス、ビデオ・フォーマットを示しています。

表 4. Avid と Pro Tools のレートとシンク・リファレンスの対応

Media Composer				Pro Tools			
Avid プロジェクト形式	編集再生レート	Mojo DX または Nitris DX のビデオ・リファレンス	Mojo または Mojo SDI のビデオ・リファレンス	PT タイムコード・レート	PT オーディオ・レートのプルアップ / ダウン	SYNC I/O のビデオ・リファレンス	SYNC HD のビデオ・リファレンス形式
23.976p NTSC	23.976	NTSC	NTSC	23.976	None	NTSC	NTSC
	24	NTSC	NTSC	24	0.1% Up	NTSC	NTSC
24p NTSC	24	NTSC	NTSC	24	None	NTSC	NTSC
	23.976	NTSC	NTSC	23.976	0.1% Down	NTSC	NTSC
30i NTSC	29.97	NTSC	NTSC	29.97	Variable	NTSC	NTSC
24p PAL	24	PAL	PAL	24	None	PAL	PAL
	25	PAL	PAL	25	4% Up	PAL	PAL
25p PAL	25	PAL	PAL	25	None	PAL	PAL
	24	PAL	PAL	24	4% Down	PAL	PAL
25i PAL	25	PAL	PAL	25	None	PAL	PAL
720p/23.976	23.976	720p/59.94*	n/a	23.976	None	NTSC	720p/59.94 (or NTSC)
720p/25	25	720p/50	n/a	25	None	PAL	720p/50 (or PAL)
720p/29.97	29.97	720p/59.94	n/a	29.97	None	NTSC	720p/59.94 (or NTSC)
720p/50	50	720p/50*	n/a	25	None	PAL	720p/50 (or PAL)
720p/59.94	59.94	720p/59.94*	n/a	29.97	None	NTSC	720p/59.94 (or NTSC)
1080p/23.976	23.976	1080p/23.98sF	n/a	23.976	None	NTSC	1080p/23.97 (or NTSC)
1080p/24	24	1080p/24sF	n/a	24	None	PAL or NTSC	1080p/24 (or PAL or NTSC)
1080p/25	25	1080p/25sF (or 1080i/50)*	n/a	25	None	PAL	1080p/25 (or 1080i/50 or PAL)

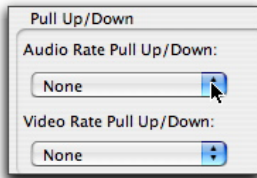
Media Composer (continued)				Pro Tools (continued)			
Avid プロジェクト形式	編集再生レート	Mojo DX または Nitris DX のビデオ・リファレンス	Mojo または Mojo SDI のビデオ・リファレンス	PT タイムコード・レート	PT オーディオ・レートのプルアップ/ダウン	SYNC I/O のビデオ・リファレンス	SYNC HD のビデオ・リファレンス形式
1080p/29.97	29.97	1080i/59.94	n/a	29.97	None	NTSC	1080i/59.94, 1080psf-29.97 (or NTSC)
1080i/50	50	1080i/50*	n/a	25	None	PAL	1080i/50, 1080psf-25 (or PAL)
1080i/59.94	59.94	1080i/59.94*	n/a	29.97	None	NTSC	1080i/59.94, 1080psf-29.97 (or NTSC)

* Media Composer 自体は、これらの HD レートでビデオ機器をブラック・バーストやトライレベル・シンクへ同期させることができますが、Video Satellite でこれらの HD レートを使うときは Media Composer のビデオ機器を同期させられるのはトライレベル・シンクへのみです。

オーディオのプルアップ / プルダウン設定を Pro Tools で変更するには：

1 Pro Tools で、[設定] (Setup) > [セッション] (Session) を選択します。

2 セッション設定ウィンドウのタイムコード設定セクションで、オーディオレートプルアップ / ダウン・ポップアップメニューからレートを選択します。



セッション設定ウィンドウのプルアップ / プルダウン・セクション

3 [OK] をクリックして新規プルアップ / プルダウン・レートをセッションに適用します。

タイムコード形式（ドロップ・フレームまたはノンドロップ・フレーム）を一致させる

Pro Tools と Media Composer は、同じタイムコード形式（ドロップ・フレームまたはノンドロップ・フレームのいずれか）に設定されている必要があります。

タイムコード形式設定が確実に対応するようにするには：

1 Pro Tools で、[設定] (Setup) > [セッション] (Session) を選択します。タイムコード・レート・ポップアップメニューに、フレームレートの後に [DF] が表示されている場合、Pro Tools は [ドロップフレーム] に設定されています。

2 Media Composer で、レコード・モニターを右クリックし、[Get Clip Info] を選択します。

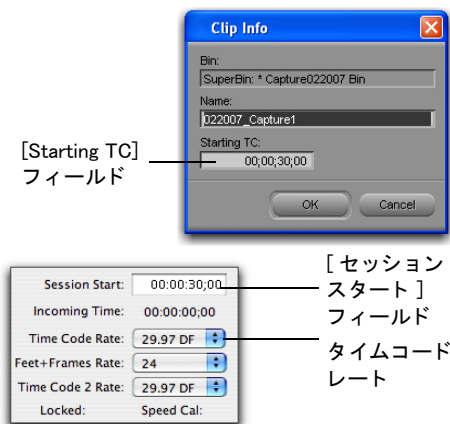


レコード・モニターを右クリックする



プロジェクト形式によっては、Media Composer はドロップ・フレームまたはノンドロップ・フレームに対して設定することができますが、対応する Pro Tools のタイムコード・レートはノンドロップ・フレームにのみ設定することができます。このような場合、Media Composer は、ドロップ・フレームに設定されていてもノンドロップ・タイムコード情報を Pro Tools に対して送信します。Media Composer 内の以下のプロジェクト形式では、この動作が見られません。23.976p NTSC、24p NTSC、720p/23.976。

TC フィールドの番号がコロンではなくセミコロンで分割されている場合、プロジェクトはドロップ・フレームに設定されています。



[Clip Info] ダイアログ (Media Composer、上) とセッション設定ウィンドウ部分 (Pro Tools、下)

3 タイムコード形式が一致しない場合、以下のいずれかを行います。

- Pro Tools が Media Composer のタイムコード形式に一致するよう強制するには、対応するタイムコード形式をタイムコード・レート・ポップアップメニューから選択します。

または

- Media Composer を Pro Tools のタイムコード・レートに一致するよう強制するには、[Starting TC] フィールドの番号の間にセミコロン（ドロップ・フレームの場合）またはコロン（ノンドロップ・フレームの場合）を入力し、Enter キーを押します。

Media Composer の [Starting TC Time Code] 設定と Pro Tools の [セッションスタート]

ほとんどの場合、ビデオの最初のフレームは Media Composer シーケンスの最初に置かれています。しかし、Pro Tools セッションには無音部分が始めに含まれていることが多く、カウントオフまたは無音部分を作成します。

たとえば、Media Composer シーケンスが 1:00:00 からスタートするのに対し、Pro Tools のセッションが 00:55:00 からスタートし、オーディオがスタートする前に 5 秒の無音部分が生まれるとします。この場合、Media Station|PT はビデオの最初のフレームで停止し、ビデオの再生を開始する前に Pro Tools が 1:00:00 に到達するのを待ちます。Pro Tools と Media Composer は、それぞれのスタート時間に関係なく、Pro Tools のセッション設定ウィンドウのビデオ・サテライト・オフセット・フィールドにオフセットが入力されているのでない限り、常に同じタイムコード値で再生します。

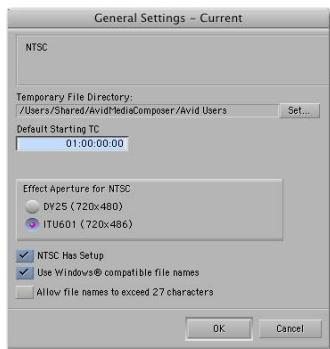
そのため、Media Composer シーケンスと Pro Tools セッションが同期で再生するためには、同じ時間からスタートする必要はありません。

▲ 場合によっては、Pro Tools セッションのスタートより 1 分以上前の位置で、Media Composer から再生を開始すると、エラーが生じることがあります。Pro Tools セッションのスタート時間を前に変更してください。

新規シーケンスのデフォルトのスタート時間を Media Composer で設定するには：

1 プロジェクト・ウィンドウで [Settings] タブをクリックしてから、[General] 設定をダブルクリックします。

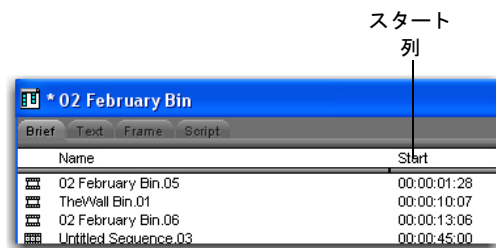
2 [Default Starting TC] フィールドに目的の開始タイムコードをタイプします。



[General Settings] ダイアログ

Media Composer の既存のシーケンスのスタート時間を変更するには：

- 1 Media Composer, で、既存のシーケンスを含むビンを開きます。
- 2 必要に応じて、ビン・ウィンドウをサイズ変更してビン・ウィンドウの [Start] 列が表示されるようにします。



ビン・ウィンドウ ([Name] および [Start] 列を表示)

- 3 新規スタート時間を設定するシーケンスの [Start] 列で、セミコロン（ドロップ・フレームの場合）またはコロン（ノンドロップ・フレームの場合）を使って新規スタート時間を入力し、Enter キーを押します。
- 4 [OK] をクリックして確定します。

Pro Tools とビデオ・サテライトで異なるシーケンスのスタート時間を補正する

Avid シーケンスのスタート時間が

Media Composer および Pro Tools 間で異なる場合に生じるオフセットを補正することができます。

シーケンスの異なるスタート時間を補正するには：

- 1 Pro Tools で、[設定] (Setup) >[セッション] (Session) を選択します。[セッション設定] ウィンドウが表示されます。
- 2 [外部のタイムコード オフセット] セクションで、以下のとおり Pro Tools と Video Satellite のオフセットを補正します。
 - ・ビデオ・サテライト・シーケンスのスタート時間が、Pro Tools シーケンスのスタート時間より前にある場合、正の値のタイムコード値を [サテライトオフセット] フィールドへ入力します。
 - ・ビデオ・サテライト・シーケンスのスタート時間が、Pro Tools シーケンスのスタート時間より後にある場合、負の値のタイムコード値を [サテライトオフセット] フィールドへ入力します。

モニターによる出力の遅延を補正する

多くのモニターでは、ビデオ出力に 1 フレーム以上の遅延が加えられます。ビデオ出力に必要なフレーム分だけ前へ進めることにより、この遅延を補正することができます。

ビデオ出力を補正するフレーム数を設定するには：

- 1 Media Composer で、[Settings]>[Video Satellite Settings] を選択します。
- 2 [ビデオサテライトオフセット] フィールドに、モニターのディレイと一致する正の値をタイプします。いくつかの異なる設定を試してみる必要があるかもしれません。

Pro Tools とビデオ・サテライトをリンクまたはリンク解除する

Pro Tools とビデオ・サテライトをお互いに接続し、第2章で説明とおり設定したら、これらを Pro Tools と Media Composer のトランスポートで操作できます。



標準の *Pro ToolsMachineControl* オプション機能は、ビデオ・サテライト・トランスポート操作に影響されません。しかし、ビデオ・サテライトへリンク中の MIDI マシンコントロールまたは MIDI タイムコードへの追従には対応していません。

リンクしている場合、Pro Tools と Media Composer は以下のトランスポート操作に対応しています。

- ・オーディオ再生あり：
 - ・再生
 - ・半速で再生
 - ・ループ再生
 - ・シャトル
 - ・スクラブ
 - ・レコード
 - ・ループレコーディング
 - ・FF/REW（Pro Tools の初期設定 [早送り / 巻き戻し中に音を出す] がオンのとき）
- ・オーディオ再生なし：
 - ・ロケート
 - ・ナッジ
 - ・選択

Media Composer で J、K、L キーを使って前後に移動するとき、Pro Tools は 1x でオーディオを前へ再生します。後へ再生したり、他の再生速度で再生することはできません。



Video Satellite は Media Composer の [Trim]、[Color Correction]、[Effects] モードには対応していません。

リンク・コントロール

Pro Tools システムがアドミニストレータとして設定されているときは、以下のコントロールがトランスポート・ウィンドウに表示されます。

リンク・ボタン ローカル・システムのリンクの状態を操作します。

サテライト・リンク・ボタン 他のサテライト・システムのリンクの状態を操作します。それぞれのシステムで、これらのボタンが他のシステムのメイン・リンク・ボタンに対応しています。

システムをリンクすると、リンク・ボタンがハイライトされます。

トランスポート・ウィンドウにリンクのコントロールを表示するには：

- ・ [表示] (View) > [トランスポート] (Transport) > [同期] (Synchronization) と [表示] (View) > [トランスポート] (Transport) > [拡張表示する] (Expanded) を選択します。



Pro Tools のトランスポート・ウィンドウでコントロールをリンクする

ローカルの ProTools システムをリンクまたはリンク解除するには：

- ・ トランスポート・ウィンドウのリンク・ボタンをクリックします。

他のサテライト・システムをリンクまたはリンク解除するには：

- ・ トランスポート・ウィンドウのサテライト・リンク・ボタンをクリックします。

Media Composer 内でビデオ・サテライト・システムをリンクまたはリンク解除するには、以下のいずれかを行います。

- ・ サテライト・リンク・ボタンをクリックし、リンクされている状態（緑色）またはリンクされていない状態（灰色）へと変更します。

または

- ・ Shift+Alt-L (Windows) を押し、リンクとリンク解除を切り替えます。



ビデオ
サテライト
リンクボタン

Media Composer のビデオ・サテライト・リンク・ボタン

💡 ネットワークのクロックが確立されると、リンク・ボタンが短時間点滅します。

💡 Media Composer がエラー・ダイアログを表示した場合は、Pro Tools の Video Satellite 用ビデオ・サテライト・リンク・ボタンが赤くなります。カーソルをリンク・ボタンの上に移動すると、ダイアログが表示されます。ダイアログを閉じるには、ビデオ・サテライト・システムのサテライト・リンク・ボタンを Shift-クリックします。

コントロール・サーフェスでリンクを操作する

Pro Tools システムのリンク・ボタンを切り替えるには (ICON と C|24) :

- ・ コントロール・サーフェスで Command + [Online] ボタン (Mac) または Control + [Online] ボタン (Windows) を押します。

サテライト・リンク・ボタンを切り替えるには (D-Control または D-Command のみ) :

- 1 コントロール・サーフェスで Command + [Modes] (Mac) または Control + [Modes] (Windows) を押すと、リンクされたすべてのシステムがソフトキーのディスプレイに表示されます。

- 2 [Modes] ボタンが点灯します。もう一度 [Modes] を押すと、サテライト・リンク・モードが解除されます。

- 3 各マシンに対応したソフトキーを押すと、そのマシンをリンクまたはリンク解除できます。

ビデオ・サテライト・システムでオーディオおよびビデオをキャプチャーする

ビデオ・サテライト・システムを使って、1 回のパスでオーディオを Pro Tools へビデオ・メディアを Media Composer へキャプチャーすることができます。

オーディオおよびビデオをキャプチャーする前

オーディオおよびビデオをテープからキャプチャーする前に、以下の接続がなされていることを確認します。

Avid ビデオ機器との接続には、以下を行います。

- 1 ビデオ・デッキの目的のアウトプットをビデオ機器のインプットへ接続します。

- 2 オーディオ・ソースを最初の Pro Tools オーディオ・インターフェースのインプットへ接続します。

詳しくは、「HD セットアップ・ガイド」および Pro Tools オーディオ・インターフェースのガイドをご参照ください。

Avid ビデオ機器を含まない接続では、以下のいずれかを行います。

- ・ FireWire ベースの接続の場合、FireWire ケーブルを Media Composer システムの FireWire ポートに直接接続します。

ビデオとオーディオは FireWire 接続を経由して 1 つの信号にストリームされているため、オーディオ・インプットに接続する必要はありません。

Firewire を使ってビデオをキャプチャーする場合は、オーディオとビデオの両方を Media Composer へキャプチャーしなければなりません。オーディオとビデオの両方が 1 本の FireWire ケーブルで送られるからです。必要であれば、後でオーディオを Pro Tools へエクスポートすることができます。

オーディオおよびビデオのキャプチャーの注意

ビデオ・サテライト・システムを使ったオーディオおよびビデオのキャプチャーに対して、以下の注意が適用されます。

- ・ 技術的な制限により、1394 接続経路でコントロールされている機器からビデオをキャプチャーする際、オーディオ同期は最大 3/4 フレーム分ずれます。
- ・ 29.97 のテレシネ・ビデオテープを 24 fps プロジェクトにキャプチャーする場合、まず Media Composer でオーディオとビデオの両方をキャプチャーしてから、オーディオを Pro Tools へエクスポートする必要があります。66 ページの「オーディオおよびビデオをキャプチャーする」をお読みください。AAF シーケンスを手動でエクスポートする方法は、「Avid Media Composer ガイド」をお読みください。

キャプチャー用に Pro Tools と Media Composer のビデオ・サテライトを設定する

同期キャプチャーに対して Pro Tools と Media Composer を設定する前に、2 つのアプリケーションの設定が一致していることを確認します。詳しくは、52 ページの「ビデオ・サテライト・システム内の Media Composer と Pro Tools 設定を一致させる」をお読みください。

ビデオ・サテライト・システム内でのキャプチャーに対して Pro Tools を設定する

オーディオのキャプチャー用に Pro Tools を設定するには：

1 Pro Tools で [設定] (Setup) > [セッション] (Session) を選択し、以下を確認します。

- ・ クロック・ソース・ポップアップメニューが [SYNC] に設定されている。

および

- ・ クロック・リファレンス・ポップアップメニューが、ビデオ・リファレンス (SD) またはビデオ・リファレンス (HD) に設定されている。

または

- ・ クロック・リファレンス・ポップアップメニューがワード・クロックなど別のソースへ設定されている場合は、[Ref Present]LED が点灯していることを確認し、SYNC が同期しているクロック・リファレンスと VTR のクロック・リファレンスが一致していることを確認してください。

2 オーディオ入力を任意のトラックにルーティングします。

3 オーディオをキャプチャーするオーディオ・トラックを録音可能にします。

4 トランスポート・ウインドウのレコード・ボタンをクリックします。

これで新規または既存のシーケンスへキャプチャーするための Media Composer の設定の準備ができました。

既存のシーケンスへキャプチャーするために Media Composer を設定する

既存のシーケンスへキャプチャーするために Media Composer ビデオ・サテライトを設定するには：

- 1 Media Composer で、キャプチャーする新規メディア内に既存のシーケンスを開きます。
- 2 シーケンスをレコード・モニターヘドラッグし、タイムラインへ置きます。
- 3 Pro Tools と Media Composer の両方が同じドロップ / ノンドロップ・フレームに設定されていることを確認します。
- 4 マークイン・コントロールを使って、タイムライン上のキャプチャーを開始する場所にイン位置を設定します。

 Media Composer は、キャプチャーされたビデオをタイムラインのイン位置に配置します。しかし、この位置はテープ上のビデオのタイムコード位置とは異なります。タイムコード位置は、キャプチャー・ツールで設定されるイン位置により決定されます。たとえば、キャプチャー・ツールのイン位置が 1:00 に設定されており、タイムラインのイン位置が 0:30 に設定されている場合、Media Composer は、テープが 1:00 に到達するとキャプチャーを開始しますが、キャプチャーされたビデオを 0:30 で開始するタイムライン上に置くため、30 秒のオフセットが生じます。

キャプチャーされたビデオと元のテープを同期させるには、タイムライン上のイン位置がキャプチャー・ツールのイン位置と同じである必要があります。

キャプチャー・ツールを設定する準備ができました。63 ページの「キャプチャー・ツールを設定する」をお読みください。

メディアの最終フレーム後のタイムラインにあるシーケンス内の位置へキャプチャーする場合、シーケンスを人為的に拡張する必要があります。

タイムラインのシーケンスを人為的に拡張するには：

- 1 Media Composer で、キャプチャーする新規メディア内に既存のシーケンスを開きます。
- 2 少なくともメディア 1 フレーム分を現在のタイムラインの終わりに加えます。
- 3 そのメディアの先端にカーソルを置きます。
- 4 [Source] モニターの上をクリックしてポップアップメニューを表示し、[Load Filler] を選択してソースへ 2 分間の補間をロードします。
- 5 [In/Out] ポイントを目的の補間の値に合わせ、[Splice] ボタンを使ってフィラーをシーケンスへ挿入します。
- 6 タイムラインが十分に長くなるまで、これが必要に応じて繰り返します。

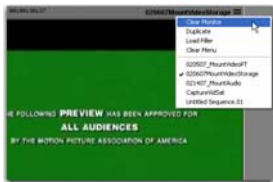
 この「補間」シーケンスを作成すると、他のプロジェクトでの同じ目的に対して保存し使用することができます。

空の新規シーケンスへ直接キャプチャーするために Media Composer を設定する

空のシーケンスへキャプチャーすると、Media Composer は、[Settings] タブの [General] 設定で設定されているデフォルトのスタート時間を使用します。

新規シーケンスへ直接キャプチャーするよう
Media Composer ビデオ・サテライトを設定するに
は：

- 1 開いているシーケンスがある場合、レコード・モニターの上をクリックしてポップアップメニューを表示し、[Clear Monitor]を選択します。
- 2 [Clip]>[New Sequence]を選択します。

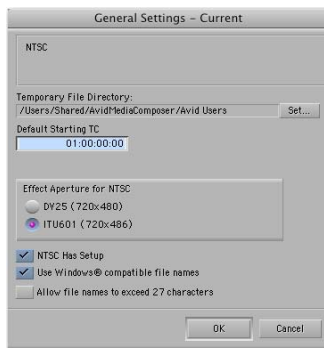


レコード・モニター上のポップアップメニュー

- 3** プロジェクト・ウィンドウで [Settings] タブをクリックしてから、[General] 設定をダブルクリックします。
- 4** [Default Starting TC] フィールドで以下のいずれかを行い、新規シーケンスのデフォルトのスタート時間を設定します。
- Pro Tools セッションの開始部分と同じタイムコード位置でシーケンスがキャプチャーを開始するようにする場合、キャプチャーのスタート時間を Pro Tools のセッション・スタート ([設定]>[Pro Tools 内のセッション]) と同じになるよう設定します。

または

- Pro Tools セッションのスタート後にあるタイムコード位置でシーケンスがキャプチャーを開始するようにする場合、Pro Tools のセッション・スタートより後になるようキャプチャーのスタート時間を設定します。



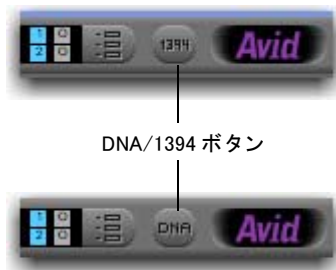
[General Settings] ダイアログ

これでキャプチャー・ツールを設定する準備ができました。63 ページの「キャプチャー・ツールを設定する」をお読みください。

キャプチャー・ツールを設定する

キャプチャー・ツールを手動キャプチャーに設定するには:

- 1** FireWire ベースの Avid ビデオ機器経由でキャプチャーする場合は、以下のいずれかを行って [Device] 設定が [DNA] に設定されていることを確認します。
- ・ タイムラインの DNA/1394 ボタンをクリックします。

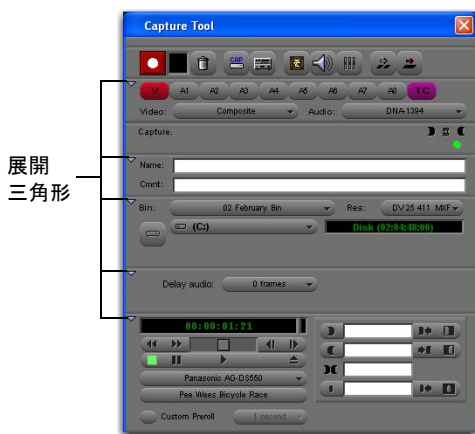


DNA/1394 ボタン (DNA と 1394 両方の状態を表示)

または

- [Special]>[Device]>[DNA] を選択します。

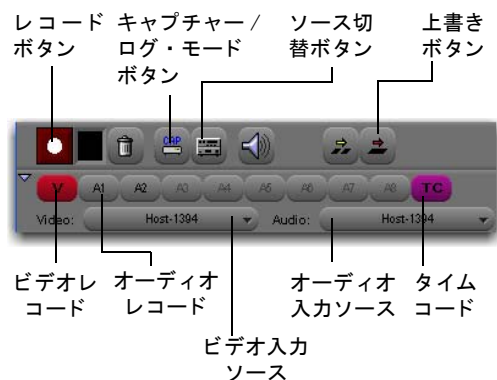
2 キャプチャー・ツールを開くには、
[Tools]>[Capture] を選択します。



キャプチャー・ツール

3 キャプチャー・ツール左側の展開三角形すべてが下を向いており、すべてのコントロールが表示されていることを確認します。

必要に応じて、キャプチャー / ログ・モード・ボタンをクリックしてキャプチャー・モード (CAP) を選択します。



キャプチャー・ツール (録音コントロール)

4 必要に応じて、ソース切替ボタンをクリックしてテープデッキのコントロールをオンにし、スラッシュの入った丸を表示しないようにします。

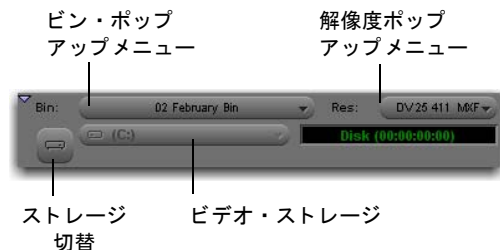
5 レコード・ボタンの下の、ビデオおよびタイムコード入力の録音ボタンをクリックします。(V はビデオ、TC はタイムコード・チャンネルを示します。)

⚠ TC (タイムコード) ボタンは、タイムコードが録音されていなくても常にオンになっています。

⚠ オーディオをキャプチャーするのに Pro Tools の代わりに Media Composer を使用するのでない限り、オーディオ入力を録音可能にしないでください。

6 既存の素材 (Pro Tools のスリップ編集に類似) の位置に影響することなく、クリップをタイムラインへ直接キャプチャーするには、上書きボタンをクリックします。Media Composer で [Satellite Mode] がオンになっているときは、このモードがデフォルトで選択されています。

7 ビデオ入力ポップアップメニューからビデオ入力ソースを選択します。



キャプチャー・ツール (ストレージ・コントロール)

8 [Bin] ポップアップメニューから、キャプチャーされるクリップを表示するビンを選択します。

💡 この設定は、キャプチャーされたファイルの保存場所には影響しません。キャプチャーされたメディア・ファイルはすべて、[OMF Media Files] フォルダ (OMF メディアの場合)、[Avid MediaFiles] フォルダ (MXF メディアの場合)、ストレージ・ポップアップメニューで選択したボリュームのいずれかに保存されます。
Media Composer のビンは、*Pro Tools* のオーディオまたは MIDI リージョン・リストに類似していますが、*Media Composer* のプロジェクトではビンの数に制限がなく、ユーザのニーズに合わせてビン間でクリップを整理できる点で異なります。

9 [Res] ポップアップメニューから、キャプチャーするビデオの解像度を選択します。

10 1つのボリュームが表示されるようストレージ切替ボタンをクリックし、ビデオ・メディアが保存されているボリュームを選択します。各ボリュームの録音可能時間は隣に表示されます。

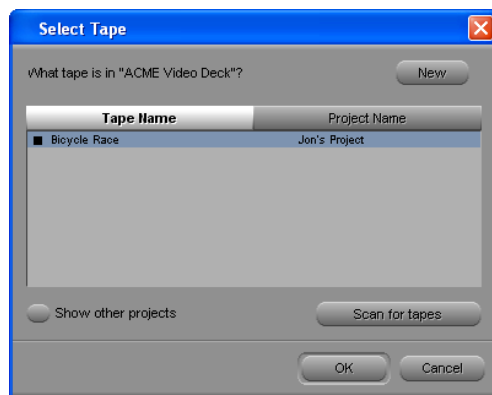
11 ソース・ポップアップメニューで VTR が正しく識別されていない場合、ソース・ポップアップメニューから [Auto-Configure] を選択してから [Yes] をクリックし、キャプチャー・ツールで VTR を自動設定し、VTR の名前を表示します。



キャプチャー・ツール (トランスポート・コントロール)

12 [Delay Audio] が 0 フレームに設定されていることを確認します。

13 テープを VTR へ挿入します。*Media Composer* にこのプロジェクトに関連するテープのリストが表示され、どのテープが挿入されたのかを尋ねるメッセージが表示されます。



[Select Tape] ダイアログ

14 以下のいずれかを行います。

- 表示されているテープ名のいずれかを選択し、[OK] をクリックします。

または

- [New] をクリックし、新規テープをリストへ追加します。

💡 これは、同じビデオを再びキャプチャーする必要がある場合に便利です。

15 入力とレベルを確認するには、以下のいずれかを行います。

- トランスポート・コントロールの再生ボタンをクリックします。ビデオがレコード・モニターとクライアント・モニターに表示されます。

⚠ DV ポート経由で DV25 ビデオをデジタル化すると、クライアント・モニターには何も表示されません。しかし、デジタル化されたクリップは正確にキャプチャーされます。

および

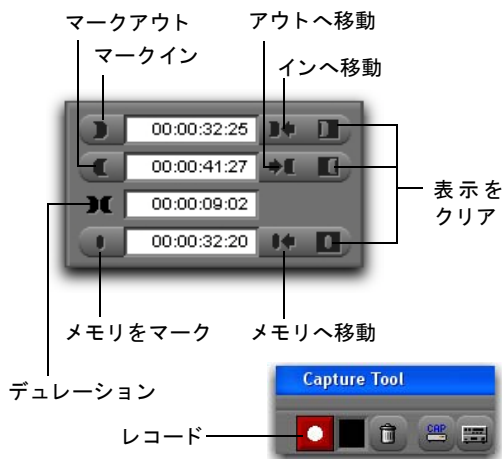
- ・ Pro Tools にオーディオ入力レベルをチェックインします。

キャプチャーの準備ができました。

オーディオおよびビデオをキャプチャーする

オーディオおよびビデオをキャプチャーするには：

- 1 キャプチャー・ツールがキャプチャーに対して設定されていることを確認します。（63 ページの「キャプチャー・ツールを設定する」参照。）
- 2 Pro Tools がビデオ・サテライトに正しく接続され、リンクされていることを確認します。（50 ページの「Pro Tools とビデオ・サテライトを接続する」参照。）
- 3 マークインとマークアウト・コントロールを使って、テープからキャプチャーするビデオの特定の位置を選択し、レコード・ボタンをクリックします。（67 ページの「キャプチャーするビデオの一部を選択する」参照。）



マークインおよびマークアウト・コントロール（とレコード・ボタン）

⚠ 不一致のフレームレートに関するエラー・メッセージが *Media Composer* に表示される場合、タイムコード形式または再生レートに不一致があることが考えられます。詳しくは、52 ページの「ビデオ・サテライト・システム内の *Media Composer* と *Pro Tools* 設定を一致させる」をお読みください。

⚠ イン位置をあらかじめ入力しないでキャプチャーすることは可能ですが、レコード・ボタンをクリックしてから実際にビデオをキャプチャーするまでに思いがけない遅延が生じることがあるため、お勧めしません。

レコード・ボタンをクリックした後、*Media Composer* が VTR の頭出しを行います。*Media Composer* と *Pro Tools* は、適時に録音モードになります。

点滅する赤い光は、レコーディング中であることを示しています。

▲ 録音中は、ビデオの表示はオーディオと同期しません。しかし、再生中はオーディオとビデオは同期します。

4 レコード・ボタンをもう一度クリックして（またはESC キーを押して）停止します。

キャプチャーするビデオの一部を選択する

キャプチャー・ツールのマークインおよびマークアウト・コントロールでは、テープからキャプチャーするビデオの一部を選択することができます。

キャプチャーするビデオの一部を選択するには：

1 キャプチャー・ツールで、以下のいずれかの方法を使ってキャプチャーを開始する位置をマークします。

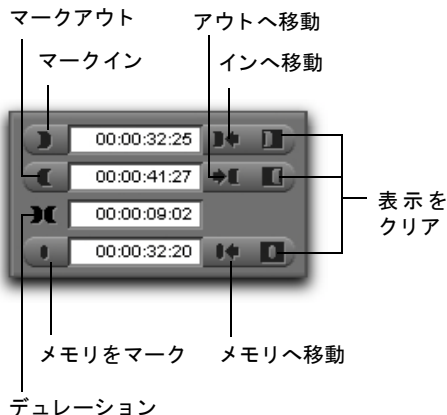
- ・スペースバーを押して（または再生ボタンをクリックして）VTRでの再生を開始し、任意の位置でマークインをクリックします。
- ・トランスポート・コントロールを使ってキャプチャーを開始する位置へテープを合わせてから、マークインをクリックします。
- ・マークイン・フィールドにタイムコード値を入力します。

▲ イン位置をあらかじめ入力しないでキャプチャーすることは可能ですが、レコード・ボタンをクリックしてから実際にビデオをキャプチャーするまでに思いがけない遅延が生じることがあるため、お勧めしません。

2 以下のいずれかの方法を使ってキャプチャーを終了する位置をマークします。

- ・VTRが再生中の場合、任意の位置でマークアウトをクリックします。

- ・トランスポート・コントロールを使ってキャプチャーを終了する位置へテープを合わせてから、マークアウトをクリックします。
- ・マークアウト・フィールドにタイムコード値を入力します。



マークインおよびマークアウト・コントロール

キャプチャーされるクリップの正確な長さが、[長さ]ディスプレイに表示されます。

3 以下を行うこともできます。

- ・マークイン位置にテープを自動的に合わせるには、[インへ移動]ボタンをクリックします。
- ・マークアウト位置にテープを自動的に合わせるには、[アウトへ移動]ボタンをクリックします。
- ・特定のフレーム（キャプチャーに反映されないフレーム）を自動的にマークするには、[メモリをマーク]ボタンをクリックします。
- ・マークイン、マークアウト、メモリをマークする位置のいずれかをクリアするには、各ボタンの隣の[表示をクリア]ボタンをクリックします。
- ・特定の長さを特定の位置からキャプチャーを開始するには、マークイン・フィールドおよび長さフィールドにタイムコード値を入力します。

- ・ 特定の長さを特定の位置でキャプチャーを停止するには、マークアウト・フィールドおよび長さフィールドにタイムコード値を入力します。
- ・ 明確な停止位置を設定しないでキャプチャーを開始するには、マークイン・フィールドにタイムコード値を入力します。

4 66 ページの「オーディオおよびビデオをキャプチャーする」での説明に従って、キャプチャーの準備ができました。キャプチャーを開始する際、VTR はイン位置に合わせられ、ビデオのキャプチャーを開始した後、アウト位置に到達すると自動的に停止します。

ビデオ・サテライト・システムでキャプチャーされたオーディオおよびビデオを再生する

ビデオ・サテライト・システムでのキャプチャーが完了したら、キャプチャーされたクリップがレコード・モニターとタイムラインに表示されます。オーディオが Pro Tools のタイムラインに表示されます。

キャプチャーされたクリップを表示するには、以下を行います。

- ・ Pro Tools または Media Composer の再生ボタンをクリックし（またはスペースバーを押し）ます。

既存のシーケンスを再びデジタル化する

Media Composer は、Avid の他の編集システムで作成したシーケンスを開くことができます。しかし、メディア・ファイルの解像度に間違いがあったり、ファイルが不明の場合、メディア・ファイルの一部またはすべてを再デジタル化することができます。

ビデオ・サテライトでこの手順を使用する場合、オーディオを Media Composer へキャプチャーしてから、組み込まれたオーディオを参照または含む AAF シーケンスを Pro Tools へエクスポートします。

EDL からデジタル化する

Media Composer には、Avid EDL Manager ソフトウェアが付属しています。このソフトウェアでは、別の編集アプリケーションからの EDL を開き、その EDL からの Media Composer シーケンスを作成してから、シーケンスをデジタル化することができます。

ビデオ・サテライトでこの手順を使用する場合、オーディオを Media Composer へキャプチャーしてから、組み込まれたオーディオを参照または含む AAF シーケンスを Pro Tools へエクスポートします。

オーディオおよびビデオをテープにレイバックする

Avid ビデオ機器を使った Pro Tools のビデオ出力はモニタリング目的での使用を対象としており、業務用レイバックや放送には適していません。Media Composer からのビデオ出力は放送品質です。オーディオおよびビデオの両方をテープに出力する必要がある場合、Pro Tools にリンクされている Media Composer を使用することができます。

! フレームの欠落を最低限に抑えるため、レイバックを実行する前にすべてのエフェクトをレンダリングしておくことをお勧めします。

💡 オーディオおよびビデオを1つのストリームに組み合わせる必要がある SDI VTR または 1394 機器にレイバックする場合、Pro Tools から Media Composer へオーディオをエクスポートするか、サードパーティの加算デバイスを使ってオーディオおよびビデオ信号を組み合わせ、その後、最終的なシーケンスをテープにレイバックする必要があります。

オーディオとビデオを Media Composer および Pro Tools からテープへ同時に録音するには：

1 ご使用のシステムが以下のとおり設定されていることを確認します。

- Pro Tools のコンピュータと Media Composer ビデオ・サテライトのコンピュータがリンクされていることを確認します。
- Pro Tools HD オーディオ・インターフェースのオーディオ・アウトプットが VTR の適切なオーディオ・インプットに接続されている。
- Media Composer システムのビデオ・アウトプットが VTR に接続されている。
- デッキ・コントロールを使用している場合、Media Composer のデッキ・コントロール・ケーブルが VTR に接続されており、VTR がリモート・モードに設定されている。

💡 24p および 23.976 プロジェクトに対して Media Composer をサテライト・モードで使用する場合、24 および 23.976 アウトプット形式のみ対応しています。29.97 アウトプット形式（プルダウンなしの再生速度 +25%）は、24p および 23.976p プロジェクトに対するサテライト・モードでは対応していません。

2 ビデオ・テープを VTR へ挿入します。

3 テープ・デッキを正しく設定する方法は、Media Composer の [Help]>[Avid Media Composer Help] の [Configuring a Deck or Multiple Decks] を参考にしてください。

4 以下のいずれかを行います。

- 表示されているテープ名のいずれかを選択し、[OK] をクリックします。

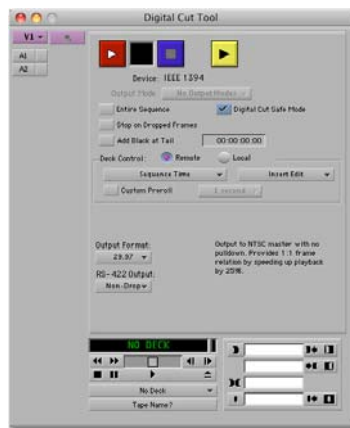
または

- [New] をクリックし、新規テープをリストへ追加します。

5 FireWire ベースの Avid ビデオ機器経由でキャプチャーする場合は、以下のいずれかを行って [Device] 設定が [DNA] に設定されていることを確認します。詳しくは、See メキャプチャー・ツールを設定する on page 63. をお読みください。

6 ビンからレコード・モニターへテープ録音するシーケンスをドラッグします。

7 [Output]>[Digital Cut] を選択します。デジタル・カット・ツールが表示されます。



デジタル・カット・ツール

8 イン位置とアウト位置をデジタル・カットに対して設定する場合、

9 以下のいずれかを行います。

- ・ [Entire Sequence] オプションを選択し、シーケンス全体を録音します。

または

- ・ [Entire Sequence] オプションの選択を解除し、タイムライン上でイン位置とアウト位置を設定します。

10 FireWire (1394) 接続経由でレイバックする場合 ([Special]>[Device]>[IEEE 1394])、アウトプット・モード・ポップアップメニューから適切な出力モードを以下のとおり選択します。

- ・ タイムライン上のすべてのメディアが DV25 の場合、または、すべてのメディアが DV50 ですべてのエフェクトがレンダリングされる場合、DV25 または DV 50 を選択することにより出力の品質がわずかに向上します。

または

- ・ その他の場合、RT DV25 または RT DV50 オプションを選択し、すべてのビデオをレンダリングしてこの形式に変換する必要があります。

11 オーディオおよびビデオが正しく録音されない場合に Media Composer が自動的にテープを停止するようにするには、[Stop on Dropped Frames] オプションを選択します。

12 [Add Black At Tail] オプションを選択し、シーケンスの最後に追加するブラックの量を入力します。

13 デッキ・コントロール・セクションから、以下のいずれかのモードを選択します。

[Local] (ローカル) モード 録音を手動で開始します。

[Remote] (リモート) モード Media Composer が VTR をスタートし、指定のタイムコードで録音を開始します。

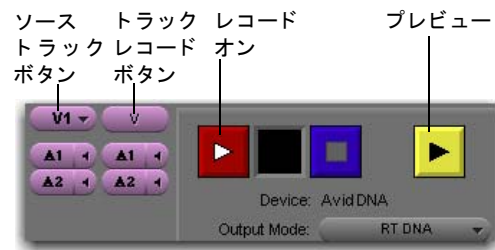
14 リモート・モードを選択した場合、以下のいずれかのオプションを選択します。

[Sequence Time] (シーケンス時間) シーケンス時間に基づき録音を開始します。たとえば、シーケンスがタイムラインの 1:00:00 で開始する場合、Media Composer はテープが 1:00:00 に到達すると録音を開始します。

[Record Deck Time] (レコードデッキ時間) VTR が現在停止している位置から録音を開始します。

[Mark In Time] (マークイン時間) トランスポート・コントロール右の一番上のウィンドウに入力されたアドレスから録音を開始します。

15 ソース・トラック・ボタンで、一番上のビデオ・トラックを選択します。選択されているビデオ・トラックと、このトラックより下のビデオ・トラックのみ録音されます。



選択されているソース・トラック

16 リモート・モードが選択されている場合、右のトラックのレコード・ボタンを使って、テープへ録音するオーディオ・トラックおよびビデオ・トラックを選択します。

17 黄色の試聴ボタンをクリックし、選択したすべてのトラックが再生されており、テープ上の挿入位置が正しいことを確認します。

18 以下のいずれかを行います。

- ・ ローカル・モードを使って録音するには、VTR の再生ボタンを押して録音します。準備ができれば、デジタル・カット・ウィンドウの録音ボタンをクリックします。

または

- ・ リモート・モードを使って録音するには、デジタル・カット・ウィンドウの録音ボタンを押します。Media Composer は、テープを頭出しして再生してから適切な位置で録音を開始します。



Avid Mojo DX または Nitris DX ビデオ機器を使ってデジタル・カットを行うときは、[Output Mode] を [Real Time] に設定すると非 FireWire ビデオ出力を使ったときに最良の A/V 同期が行えます。



デジタル・カットを実行する前に、少なくとも数秒のブラックをテープにレコーディングしてください。こうすることで、デジタル・カットを開始する際、ビデオ・テープが正確にフォーマットされます。

オーディオおよびビデオをデジタル・ムービーとしてビデオ・サテライトからエクスポートする

ビデオ・サテライト・システムとオーディオおよびビデオ・メディアがあり、QuickTime または Windows Media のデジタル・ムービーを作成したい場合、まずオーディオを Pro Tools から Media Composer へ取り込む必要があります。

オーディオおよびビデオをビデオ・サテライト・システムからデジタル・ムービーへエクスポートするには、以下の手順で行います。

- 1 オーディオを Media Composer マシンに取り込み、ビデオ・シーケンスへカットします。
- 2 シーケンスをデジタル・ムービーとしてエクスポートします。

Pro Tools から Media Composer のビデオ・サテライトへオーディオを取り込むには：

1 共有ストレージ (Unity やイーサネットにマウントされたネットワーク・ボリュームなど)、マウントされたオーディオまたはビデオ・ストレージ、DVD を介して、Pro Tools システムから Media Composer ビデオ・サテライト・コンピュータへファイルを容易に送信できる状態であることを確認します。



29 ページの「リモート・システムのメディア・ストレージをクロスマウントする」をお読みください。

- 2 以下のいずれかの方法で、オーディオ・ファイルを Pro Tools からエクスポートします。
 - ・ オーディオ・トラックをディスクにバウンズします。
 - ・ 内部トラックに再びミックスします。
 - ・ 選択されているトラックを、オーディオを組み込んだ AAF としてエクスポートします。

Pro Tool からオーディオをエクスポートする方法について詳しくは、「Pro Tools Reference ガイド」をお読みください。

3 Pro Tools オーディオを Media Composer シーケンスへインポートし、トラックへ統合します。

4 Media Composer へのオーディオのインポートと同期について詳しくは、Media Composer のガイドをお読みください。

シーケンスをデジタル・ムービーとしてエクスポートするには：

- 1 エクスポートするシーケンスをビンから選択し、レコード・モニターヘッドラッグします。
- 2 「Avid Media Composer ガイド」の説明に従ってタイムラインのすべてのエフェクトをレンダーします。
- 3 エクスポートするビデオ・トラックおよびオーディオ・トラックのトラック・ボタンを選択します。

- 4 [File]>[Export] を選択します。
- 5 名前を入力し、エクスポート先を選択します。
- 6 エクスポート設定ポップアップメニューからエクスポートするファイルの種類を選択します。
- 7 必要に応じて、[Options] をクリックして設定を続けます。
- 8 [Save] または [Save As] をクリックします。
- 9 [Export As] ダイアログで、[Save] を選択します。



Windows システムで QuickTime ムービーをエクスポートするときにエラーが発生する場合は、QuickTime Player を起動し、[QuickTime 設定]>[詳細] の [セーフモード (GDI のみ)] を選択してください。

索引

A

AAF/OMF シーケンス (AAF シーケンス参照)

AAF シーケンス

AAF シーケンスを受信する 37

Media Composer からエクスポートする (サテライトのみ)

Pro Tools 上にビデオ用ドライブがマウントされている状態で 45

Pro Tools へインポートする (サテライトのみ)

マウント不可能なボリュームから 50
のエクスポート設定 47

Media Composer へインポートする (サテライトのみ)

再生に非対応のボリュームから 48

再生ボリュームから 47

Pro Tools へインポートする (サテライトのみ)

再生に非対応のボリュームから 49

再生ボリュームから 49

Media Composer の対応 7

再生用にサテライト・システムで開く 47
への Pro Tools の対応 7

Avid DV ビデオ 3

[Avid MediaFiles] フォルダ

[簡易ファイルの共有を使用する] をオフにする 19

の場所 9

Avid Mojo SDI (Mojo SDI 参照)

AAF シーケンス

Media Composer からエクスポートする (サテライトのみ)

サテライト上にオーディオ用ドライブがマウントされている状態で 43

Avid シーケンス

AAF シーケンスとしてエクスポートする

Pro Tools 上にビデオ用ドライブがマウントされている状態で 45

サテライト上にオーディオ用ドライブがマウントされている状態で 43

サテライト・システムで開く 38

Unity から (Pro Tools はストリーミングしていない) 40

Unity から再生している Pro Tools を使って 38

ローカル /Unity ストレージでストリーミングしていない Pro Tools を使って 38

サテライト・ビデオ・ストレージへコピーする 42

タイムラインで人為的に拡張する 62

デジタル・ムービーとしてエクスポートする 71

の一部を選択する 67

のデフォルトのスタート時間を設定する 57

サテライト・システムで開く

概要 37

再生に非対応のボリュームから 42

既存のスタート時間を変更する 58

キャプチャーする

空のシーケンスへ 62

既存のシーケンスへ 62

Avid ビデオ機器

ヘビデオ・リファレンスを接続 16

VTR へ接続する 15

システム必要条件 11

AV 同期の問題

DVI 出力を原因とする 29

複数のアプリケーションによる 51

C

CAT5e イーサネット・ケーブル

ビデオ・サテライト・システムの必要条件 24

Clip Info ダイアログ 57

D

[Display Both Fields] オプション 28

DNA/1394 ボタン 63
 DNxHD ビデオ 3
 DV25 ビデオ 3
 と空のクライアント・モニター 66
 DV50 ビデオ 3
 DVC Pro 25 ビデオ 3
 DVCPRO HD ビデオ 3
 DVI
 と再生制限 29
 DV コーデック 3

E
 Edit Play Rate 設定
 オーディオ・プルアップ設定に一致させる 52
 [Export As] ダイアログ 39, 40, 43, 45, 47

F
 FireWire
 サテライト・システムでキャプチャーする 61
 [Flip On Vertical Sync] オプション 28
 [Full Screen Playback Settings] ダイアログ 28

G
 General Settings ダイアログ 58, 63

I
 IMX ビデオ 3
 Interplay
 サテライト・システムで使用する 50

J
 JFIF コーデック 3

M
 Mac OS X
 Windows 上に生じる「ゴースト」ファイル 32
 Windows ヘマウントするためにストレージを共有する 30, 34
 MachineControl
 VTR で設定する 15
 サテライトへの作用 59
 Media Composer
 AAF シーケンスをエクスポートする (サテライト・システム)
 Pro Tools 上にビデオ用ドライブがマウントされている状態で 45
 サテライト上にオーディオ用ドライブがマウントされている状態で 43
 Edit Play Rate 設定 52
 Media Station|PT からのアップグレードとしてインストールする 17
 Pro Tools にエラーを表示 60
 Pro Tools ヘリンクする 59
 Starting TC Time Code 設定 52
 Sync Lock を設定する 16
 クロスマウント (理由) 29
 サテライト・システムに対する注意 51
 サテライト接続のトラブルシューティング 51
 タイムコード形式設定 52
 ドロップ・フレーム設定 52
 の MXF 対応 7
 ノンドロップ・フレーム設定 52
 ビデオ・サテライト (ビデオ・サテライト・システム参照)
 ビデオ・サテライトとして設定する 25
 フルスクリーン再生設定 27
 プロジェクト・タイプ設定 52
 への Interplay 対応 4
 への OMF の対応 8
 モニター・ディレイを補正する 58
 モニター出力ディレイ 58
 Media Media Composer と共に他のアプリケーションを動作させる (問題) 51
 Media Station|PT
 から Media Composer へアップグレードする 17

Mojo
 ヘビデオ・リファレンスを接続 16
Mojo SDI
 に対して Sync Lock を設定する 16
 ヘビデオ・リファレンスを接続 16
 MPEG30 ビデオ 3
 MPEG40 ビデオ 3
 MPEG50 ビデオ 3
 MXF コーデック 3

N
 NTSC
 オーディオ・プルアップと編集再生レート 53
 タイムコード・フォーマット 56
 フレームレート 3
 モニター 2

nVidia ドライバ
インストールする 19

O

[OMFI MediaFiles] フォルダ
[簡易ファイルの共有を使用する]をオフに
する 19

の場所 9

OMF シーケンス (AAF シーケンス参照)

OMF メディア
への Pro Tools の対応 8

OP1a ビデオ 3

P

PAL

NTSC 53
タイムコード・フォーマット 56
フレームレート 3
モニター 2

Pro Tools

AAF シーケンスをインポートする (サテライ
ト)

マウント不可能なボリュームから 50

Interplay 対応 4

Video Satellite オプション 23

Video Satellite オプションをオーソライズする
23

オーディオ・プルアップ設定 52

キャプチャー用にサテライトを使って設定す
る 61

クロスマウント (理由) 29

クロック・リファレンス設定 52

サテライト設定に一致させる 52

セッションスタート設定 52

タイムコード・レート設定 52

ドロップ・フレーム設定 52

の MXF 対応 7

ノンドロップ・フレーム設定 52

ビデオ・サテライトへリンクする 59

への OMF の対応 8

ヘビデオ・ストレージをマウントする理由 30

リンク・コントロール 59

Media Composer のエラーの動作 60

コントロール・サーフェスからシステム
をリンクまたはリンク解除す
る 60

コントロール・サーフェスからミニ・リ
ンク・ボタンにアクセスする
60

リンクのアドミニストレーとして設定する 25

Pro Tools とサテライトのリンクを解除する (リ
ンクするを参照)

Pro Tools を終了する
とサテライトへの影響 51

S

[Save Export Settings] ダイアログ 47

Select Tape ダイアログ 65

Starting TC Time Code 設定
セッションスタート設定に一致させる 52

Sync Lock

Avid Mojo SDI に対して設定する 16

V

Video Satellite オプション
オーソライズする 23

VTR

MachineControl で設定する 15

W

Windows

Mac ボリュームからの「ゴースト」ファイル
32

nVidia ドライバをインストールする 19
用に Mac OS X メディア・ストレージを共有
する 34

Windows Vista

nVidia ドライバ・サービスを無効にする 19

Windows XP

nVidia ドライバ・サービスを無効にする 19

あ

アーティファクト 2, 29

アウトプット・モニター、変更する 28

い

イーサネット接続

ビデオ・サテライト・システム用 24

一致させる

Pro Tools と Media Composer の設定 52

インストールする

Media Composer

ビデオ・サテライト・システムとして 13

nVidia ドライバ 19

インターレース方式の HD プロジェクト 4

インポートする

AAF シーケンスから Pro Tools へ (サテライト)

マウント不可能なボリュームから 50

再生に非対応のボリュームから 49

再生ボリュームから 49

Media Composer へ AAF シーケンスを (サテライト)

再生に非対応のボリュームから 48

再生ボリュームから 47

う

ウェブサイト 12

え

エクスポートする

AAF エクスポート 設定 47

AAF シーケンスとしての Avid シーケンス (サテライト)

Pro Tools 上にビデオ用ドライブがマウントされている状態で 45

サテライト上にオーディオ用ドライブがマウントされている状態で 43

Media Composer から AAF シーケンス (サテライト)

サテライト上にオーディオ用ドライブがマウントされている状態で 43

Media Composer から AAF シーケンスを (サテライト)

Pro Tools 上にビデオ用ドライブがマウントされている状態で 45

オーディオとビデオ

サテライトからデジタル・ムービーとして 71

エクスポート 設定

保存と呼び出し 47

エクスポート 設定ダイアログ 39, 40, 43

お

オーソライズする

Pro Tools 23

オーディオ

サンプルレート 精度 10

オーディオ・ストレージ

Windows ヘマウントするために Mac を共有する 34

オーディオ・プルアップと編集再生レート 53

オーディオ・ストレージ

Windows Vista 上にマウントする 35

Windows XP メディア・ストレージをマウントする 34

WindowsXP にマウントする 36

Windows ヘマウントするために Mac を共有する 30

オーディオ・ストレージがサテライト上にマウントされている状態で Media Composer から AAF シーケンスをエクスポートする 43

ビデオ・サテライトヘマウントする理由 30

オーディオとビデオ

サテライト上でキャプチャーされたメディアを再生する 68

デジタル・ムービーとしてエクスポートするサテライト・システムから 71

キャプチャーする

サテライト・システムを使って 60, 66

同期の問題

DVI 出力を原因とする 29

複数のアプリケーションによる 51

オーディオのとぎれ (原因) 51

オーディオ・プルアップ / プルダウン 設定

Edit Play Rate 設定と一致させる 52

変更する 56

オートメーション

対 Avid オートメーション・ゲイン 6

オートメーション・ゲイン (Avid)

対 Pro Tools オートメーション 6

オフセット

ビデオ・サテライト・スタート時間に対して設定する 58

オフにする

簡易ファイルの共有を使用する 19

オンライン・ヘルプ 3

か

ガイドの凡例 12

外部のメディア（リンクされたメディアを参照）
概要

シーケンスをサテライト・システムで開く 37
ビデオ・サテライト・システム 13

簡易ファイルの共有を使用する
オフにする 19

き

起動する

オンライン・ヘルプ 3

輝度、変更する 28

キャプチャーされたビデオ

元のテープとのタイムコード同期 62

キャプチャーする

キャプチャー・ツールを設定する

サテライト・システム用 63, 69

サテライトでキャプチャーする前 60

ビデオ・サテライト・システムに対する注意
61

オーディオとビデオ

サテライト・システムを使って 66

キャプチャー・ツール

サテライト・システムに対して設定する 63, 69
の例 64

共有する

Mac OS X メディア・ストレージ

Windows XP ヘマウントするため 30, 34

Windows Vista メディア・ストレージ

リモート・システムヘマウントするため
31

Windows XP メディア・ストレージ

ドメイン上 31

リモート・システムヘマウントするため
31

ワークグループ上 32

ドメイン上 31

[共有] タブ ([プロパティ] ダイアログ) 32, 33

[共有とセキュリティ] コマンド 31, 32

く

組み込まれたメディア

対リンクされたメディア 9

の定義 8

クライアント・モニター

の定義 6

クリップ

の定義 5

クロスマウントする

Windows XP 上の Mac OS X メディア・スト
レージ 36

Windows XP メディア・ストレージ

Mac OS X 上 34

Windows Vista 上 35

Windows XP 上 36

Windows Vista 上の Mac OS X メディア・スト
レージ 35

に対する設定を選択する 30

の定義 29

理由 29

クロック・リファレンス設定

プロジェクト・タイプ設定に一致させる 52

こ

「ゴースト」ファイル 32

コーデック 3

更新レート

対 ビデオ・フレーム・レート 29

構成する

キャプチャー用のサテライト・システム 61

サテライトと Pro Tools 間の接続 24

キャプチャー・ツール

サテライト・システム・キャプチャー用
69

互換性

Media Composer と Pro Tools の設定 54

フレームレートのビデオとサンプルレートの
オーディオ 10

コントロール・サーフェス

からサテライト・リンク・ボタンにアクセス
する 60

からメイン・システムをリンクまたはリンク
解除する 60

コンピュータ・ディスプレイの輝度を拡張する

29

さ

[サーバへ接続] ダイアログ 34

サブクリップ

の定義 5

サンプルレート

Pro Tools での精度 10

し

システム認証ダイアログ 35

受信

AAF シーケンス 37

シリアル 9 ピン・ケーブル

サテライトを VTR へ接続するのに使用する
15

シンクオフセット 29

す

図

ビデオ・サテライト・システム 14

スタート時間

既存のシーケンスに対して変更する 58

ストレージ・システム

Unity 5

ストレージ設定

クロスマウントに対して選択する 30

せ

制限

Pro Tools ドロップ・フレーム制限 56

DVI 再生 2, 29

精度

クライアント・モニター・ディレイを補正する 58

サンプルレート 10

フレームレート 10

セッション設定ウィンドウ 57

セッションスタート設定

サテライト設定に一致させる 52

接続する

Avid ビデオのない VTR 15

Media Composer

Pro Tools システムへ 24

VTR へ 14

Pro Tools からビデオ・サテライトへ 50

オーディオ I/O 14

サテライト・システムのイーサネット・ケーブル 24

ビデオ・サテライト・システムを LAN へ 24

ビデオ I/O 14

ビデオ・リファレンス 16

設定する

Sync Lock (Avid Mojo SDI 用) 16

キャプチャーするための既存のシーケンス 62

キャプチャーするための空のシーケンス 62

サテライト・スタート時間オフセット 58

キャプチャー・ツール

サテライト・システム・キャプチャー用
63

新規 Avid シーケンスのデフォルトのスタート
時間 57

説明書 11

選択する

シーケンスの一部 67

そ

ソース・モニター

の定義 6

た

対応

AAF シーケンス 7

Avid Interplay 4

MXF メディア 7

OMF 8

Avid ビデオ機器 11

フレームレート 4

プロジェクトの種類 4

タイムコード 52

Avid キャプチャーのスタートを設定する 63

Pro Tools/ サテライト間で一致させる 57

Pro Tools と Media Composer を一致させる 52
キャプチャーされたメディア & 元のテープと
の同期 62

サテライト・システムで一致するよう強制する 57

スタート時間オフセットを補正する 58

タイムコード・ボタン (キャプチャー・ツール) 64

と Pro Tools ドロップ・フレーム制限 56

に対して一致する形式 56

に対するビデオ・サテライト注意 52

対応表 54

とメタデータ 9

不一致のタイムコード 66

タイムコード形式

Media Composer へ一致させる 52

タイムコード・レート設定

プロジェクト・タイプ設定に一致させる 52

タイムライン

の定義 6

ち

注意

- サテライト・キャプチャー用 61
- ビデオ・サテライト・システムの注意 51
- インターレース方式の HD プロジェクト 4

直接接続、Pro Tools とサテライト間 24

て

テープ

- キャプチャー中のタイムコード・オフセット 62

定義

- AAF シーケンス 7
- Avid シーケンス 5
- Interplay 4
- ISIS 5
- MediaNetwork 5
- OMF メディアとシーケンス 8
- Unity 5
- クロスマウントする 29
- ビデオのスタッター 29
- メディア・データ 8
- リモート・システム 29
- リンクする (Pro Tools とサテライト) 50
- クライアント・モニター 6
- クリップ 5
- サブクリップ 5
- ソース・モニター 6
- タイムライン 6
- ビン 5
- フレーム・テアリング 29
- プロジェクト 5
- メタデータ 9
- レコード・モニター 6

ディスクにバウンス

- 対ビデオ・ミックスダウン (Avid) 6

デジタル・ムービー

- サテライトからエクスポートする 71

デジタル・カット・ツール 69

デフォルトのスタート時間

- 新規 Avid シーケンスの設定 57

と

同期オフセット 2

同期する

- Pro Tools と Media Composer の設定 52
- キャプチャーされたビデオ / 元のテープ上のタイムコード 62

同期の問題

- サテライト・システムで防ぐ 52

ドメイン

- 上の Windows XP メディア・ストレージを共有する 31

ドライバ

- nVidia 用にインストールする 19

ドラフトのビデオ品質 28

トラブルシューティング

- サテライト接続 51

ドロップ・フレーム

- サテライト・システム上の設定に一致させる 52

ね

ネイティブ HDV 対応 3

- [ネットワークドライブの割り当て] ダイアログ 36

の

ノンドロップ・フレーム

- サテライト・システムの設定に一致させる 52

は

場所

- の MXF メディア 9
- の OMF メディア 9

ひ

ビデオ

- フレームレート精度 10

ビデオ・アウトプット・ツール 16

ビデオ・クオリティ・アイコン 27

ビデオ・サテライト・システム

- AAF シーケンスを Pro Tools ヘインポートする

- マウント不可能なボリュームから 50

- Avid シーケンスを AAF としてエクスポートする

- Pro Tools 上にビデオ用ドライブがマウントされている状態で 45

- サテライト上にオーディオ用ドライブがマウントされている状態で 43

- Avid シーケンスを開く

- Unity、Pro Tools はストリーミングしていない 40

Unity から再生している Pro Tools を使っ
て 38

ローカル /Unity ストレージからストリー
ミングしていない Pro Tools を
使って 38

CAT5e イーサネット・ケーブル 24

Interplay で使用する 50

LAN へ接続する 24

MachineControl の作用 59

Mac ストレージを共有する (Windows マウン
ト用) 30, 34

Pro Tools とビデオ・サテライトをリンクする
59

Pro Tools をサテライト設定に一致させる 52

ProTools をサテライトへ接続する 50

Windows Vista メディア・ストレージを共有す
る 31

Windows XP メディア・ストレージを共有する
31

からオーディオをモニタリングする 14

キャプチャー・ツールを設定する 63, 69

キャプチャー用に設定する 61

キャプチャーされたオーディオおよびビデオ
の再生 68

サテライト接続のトラブルシューティング 51

シーケンスをビデオ・ストレージへコピーす
る 42

でオーディオおよびビデオをキャプチャーす
る 66

でオーディオとビデオをキャプチャーする 60

とサテライト・リンク中に Pro Tools を終了
する 51

に関する注意 51

のイーサネット接続を行う 24

ビデオ・サテライト・オフセットを設定する
58

ビデオが含まれた AAF に対する対応 8

ビデオを含む OMF に対する対応 8

へオーディオ・ストレージをマウントする理
由 30

リモート・ストレージをクロスマウントする
29

AAF シーケンスを Pro Tools へインポートす
る

再生に非対応のボリュームから 49

再生ボリュームから 49

Avid シーケンスを開く

再生に非対応のボリュームから 42

再生ボリュームから 38

再生するためにシーケンスを開く (概要) 37

システムの概要 13

同期の問題を防ぐ 52

ビデオ出力設定

フルスクリーン再生に対して変更する 28

プロジェクトに対して変更する 27

ビデオ・ストレージ

Mac OS X メディア・ストレージを共有する
(Windows XP 上にマウントするた
め) 30, 34

Pro Tools システムへマウントする理由 30

Windows Vista 上にマウントする 35

WindowsXP にマウントする 36

Windows ストレージを Mac にマウントする 34

ビデオ・ストレージが Pro Tools 上にマウン
トされている状態で Media
Composer から AAF シーケンスをエ
クスポートする 45

ヘシーケンスをコピーする 42

ビデオのスタッター

定義 29

ビデオの品質

変更する 27

ビデオ・フォーマット設定

プロジェクト・タイプ設定に一致させる 52

ビデオ・ミックスダウン

対ディスクにバウンス 6

ビデオ・リファレンス

接続する 16

表

Media Composer と Pro Tools の設定 54

開く

サテライト・システム上の Avid シーケンス 47

サテライト・システムの Avid シーケンス 38

Unity から (Pro Tools はストリーミング
していない) 40

Unity から再生している Pro Tools を使っ
て 38

ローカル /Unity ストレージからストリー
ミングしていない Pro Tools を
使って 38

サテライト・システムのシーケンス (概要)
37

サテライト・システム上の Avid シーケンス

再生に非対応のボリュームから 48

再生ボリュームから 47

サテライト・システムの Avid シーケンス

再生に非対応のボリュームから 42

ピン

の定義 5

ふ

プラグイン

対 Avid リアルタイム・オーディオ・エフェクト 6

フルスクリーン再生

DVI 出力制限 29

に対してアウトプット設定を変更する 28

DVI 出力制限 2

フルのビデオ品質 28

フレーム・テアリング

定義 29

防ぐ 28

フレームの欠落 (Media Station|PT と共に他のアプリケーションを動作させることにより生じる) 51

フレームレート

Avid ビデオ編集の精度 10

対応するフレームレート 4

対 更新レート 29

プレイバック

サテライト・システム上にキャプチャーされたメディア 68

サテライト・システム上の Avid シーケンス 47

サテライト・システムの Avid シーケンス 37

プロジェクト

に対してビデオ・アウトプット設定を変更する 27

の定義 5

プロジェクトの種類

Pro Tools 設定に一致させる 52

対応する 4

[プロパティ] ダイアログ

[共有] タブ 32, 33

へ

ベスト・パフォーマンスのビデオ品質 28

変換する

理由 2

変更する

Edit Play Rate 設定 53

ビデオ・アウトプット設定 (プロジェクト用) 27

オーディオ・プルアップ / プルダウン設定 56

既存のシーケンスのスタート時間 58

ビデオの品質 27

編集する

サンプルレート精度とオーディオ 10

フレームレート精度とビデオ 10

ほ

補正する

ビデオ・サテライト・オフセットに対して 58
モニター・ディレイ用 58

保存する

AAF シーケンスのエクスポート設定 47

ボリューム (メディア・ストレージ参照)

[ボリュームを選択] ダイアログ 35

ま

マウントする (クロスマウントするを参照)

マルチカメラ・ファイル対応 3

め

メタデータ

の定義 9

メディア

の Avid デフォルト・ロケーション 9

メディア・ストレージ

Windows Vista 上にマウントする 35

Windows XP ストレージを Mac にマウントする 34

WindowsXP にマウントする 34, 36

クロスマウント (理由) 29

共有する

Mac 上 (Windows へマウントするため)
30, 34

Windows 上 (リモート・マウント用) 31

メディア・ファイル 8

とメタデータ 9

も

元のテープ

とキャプチャーされたメディアとのタイム
コード同期 62

よ

用語 5

呼び出す

AAF シーケンスのエクスポート設定 47

り

リアルタイム・オーディオ・エフェクト

対 Pro Tools プラグイン 6

リファレンス

Sync Lock から変更する 16

リモート・システム

Windows Vista メディア・ストレージをクロス
マウントする 31

Windows XP メディア・ストレージをクロスマ
ウントする 31

クロスマウント設定を選択する 30

メディア・ストレージをクロスマウントする
(理由) 29

の定義 29

リンク・コントロール

Media Composer のエラーの動作 60

サテライト・リンク・ボタン 59

リンク・コントロール 59

コントロール・サーフェスから 60

リンク・ボタン 59

リンクされたメディア

対組み込まれたメディア 9

リンクする

Pro Tools とサテライト (手順) 59

Pro Tools とサテライト (定義) 50

れ

レコード・モニター

の定義 6

ろ

ロックする

Pro Tools からビデオ・サテライトへ (リンク
するを参照)

わ

ワークグループ

上の Windows XP メディア・ストレージを共
有する 32

ワークスペース・ブラウザ 46

ワードクロック

別のビデオ・リファレンスへ同期する 61



www.digidesign.com

DIGIDESIGN

〒107-0052

東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館ビル 4F

アビッドテクノロジー株式会社内

製品情報

Tel: 03.3505.7963

Fax: 03.3505.3417

テクニカル・サポート

Tel: 03.3505.4762

(HD/TDM: #30, LE: #31)

Fax: 03.3505.3417

カスタマー・サポート

Tel: 03.3505.4762 (# 22)

Fax: 03.3505.3417